

2023

Global
Human
Sciences

神戸大学国際人間科学部

人という始源、 地球という舞台。

グローバルイシューへの挑戦

国際人間科学部は、深い人間理解と他者への共感をもって地球的規模の課題に向き合い、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成します。現代の世界には、環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わり、現代社会が地球規模での協働を通して取り組まなければならない課題（「グローバルイシュー（global issues）」と呼びます）が数多く存在しています。本学部では、様々な専門分野からこのグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションをとり、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。



アドミッション・ポリシー

国際人間科学部では、グローバル社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わる諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

国際人間科学部の求める学生像

- 1 現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕
- 2 異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕
- 3 国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕



神戸大学 国際人間科学部

学部長からのメッセージ	2
先輩からのメッセージ	3
カリキュラム・施設	4
グローバル教育	6
グローバル体験	8
学部を構成する4学科	9
カリキュラム	18
教員紹介	22
国際交流	28
学生支援	30
進路実績	31
募集人員、取得可能な資格免許、沿革	32
アクセス	33





近藤徳彦 教授
国際人間科学部長

21世紀になって、情報通信技術の進化や交通手段の発達により、人や物および情報の国際的移動が大きく活発化し、人も国も外国と無縁ではられない時代となっています。

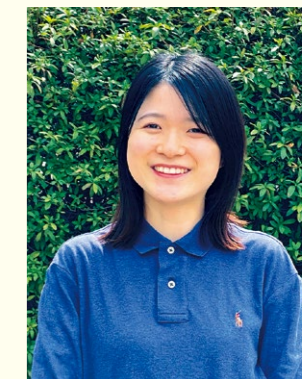
このようなグローバル化が急速に進む世界の中で、私たちの身の回りでもさまざまな課題が浮かび上がっています。地球的な資源・エネルギーの制約や環境の悪化、富の偏在などによる分断や格差の拡大、少子高齢化などの人口問題など個人や一国では解決できない課題が地球上のいたるところに存在しています。さらに新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、それ自身グローバル化により深刻さが増大した問題でもありますが、その結果引き起こされている事態は、格差の拡大などの前述の諸問題の存在をあらためてあぶり出すことにつながっています。

これらの中には、時に関係者・関係国の利害が大きく対立する問題も数多く、こうした問題には、さまざまな人々が地球規模で境界を越えて協働することの重要性が認識されつつあります。そして、その動きをより確かなものにするため、複眼的な視点と柔軟な姿勢をもち国内外で地球的課題（グローバル・イシュー）に積極的に関わる人々の養成が不可欠といわれます。

そうした中、神戸大学は2017年に国際人間科学部を創設しました。国際人間科学部では、深い人間理解と他者への共感をもって地球的課題と向き合い、多様な人々が共存する「グローバル共生社会」の実現に向けて貢献する「協働型グローバル人材」を育成することを目的としています。国際人間科学部は、神戸大学の国際文化学部と発達科学部を再編統合して作り上げた学部です。2つの学部はそれぞれ「異文化理解」「人間発達」をキーワードとして四半世紀前に設置された学際系学部です。この2つの学部で醸成された強みと特色を最大限に活かし、国際人間科学部は新たな時代に向けて「協働型グローバル人材」の育成につとめています。2022年3月に2回目の卒業生を輩出したばかりの新しい学部ですが、未来への道を模索すべく教員と職員が学生諸君と一体となって実践的な学問プロジェクトに挑戦し邁進しています。熱意あるみなさんが、この学問共同体に参加されることを強く期待します。

環境政策の本質を追究する面白さ

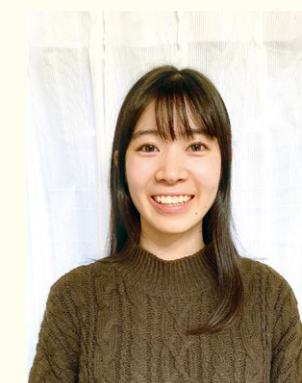
私は環境政策に関心を持っています。昨今のトレンドであるカーボンニュートラルの実現に向けた環境政策について、特に日本の地方自治体の政策比較を行っています。その面白さは、観点を定める事、あるいは単なる結果による表面上での評価でなく計量的分析を行うことで、政策の評価が変わってくる事にあります。ゼミには関心が異なる多様な学生が集まっており、多様な視点で議論しながら自身の課題の本質を模索でき、とても刺激的です。卒業後は本質を考える力を高めながら、環境関連事業に携わることで持続可能な社会の実現に貢献していきたいです。



阿波加茉緒
グローバル文化学科
社会動態プログラム
4年

横断自由の学問分野で見つけたこと

正直に言うと、私が高校生の時には、大学で学びたいことがはっきりとは決められていませんでした。漠然と人に興味があったため、心理学や芸術学を幅広く学びたいなあと考えていたくらいです。そんな私は現在、コミュニケーションそのものに関心を持ち、学んでいます。音楽や絵画といった芸術表現、言葉を介さない身体表現、スピーチの比喻といった言語表現。心理学の面からアプローチしたり、言語学の面から切り取ったり。自分の興味関心から、自由に横断的に学びを深めるのは、本当に楽しいです！ 様々な切り口から物事を捉える力は、卒業後も活きる力になると考えています。



松下いのり
発達コミュニティ学科
社会エンバワメントプログラム
4年

自分の好きな数学で人の健康に貢献したい

私は数理統計学のゼミに所属しています。元々は、数学の先生を目指していました。しかし、大学生活の中で、コロナや家族の病気などから、健康の重要性を痛感し、「人の健康を支える仕事がしたい」と気持ちが変わりました。私は数学が好きだったので、数学を通して健康に携われる仕事を探し、今は臨床統計家という薬の開発を支える職業を目指しています。この選択ができたのは、幅広く将来の選択ができるこの学科のおかげです。数学について楽しく話せるゼミのメンバー、先生に感謝しつつ、統計の勉強に日々励んでいます。



中 宏太
環境共生学科
環境数理科学プログラム
4年

作文教育と安心できる学級づくり

私は、教育方法学ゼミに所属しています。2年生の頃に受けた授業をきっかけに、生活綴方や作文教育に関心を持つようになり、小学校の先生方を中心とした学習会にも参加させて頂きながらその実践などについて学んでいます。今後は、生活綴方や、それを基盤にした子どもたちが安心して過ごすことができる学級づくりなどについて、より学びを深めたいと考えています。小学校と幼稚園の免許を取得予定で、卒業後は、みんなが安心できる学級で子どもたちと共に学び、成長していけるような小学校教員になりたいと思っています。



増田菜月
子ども教育学科
社会共生科学プログラム
4年

学びの特色

1 グローバルな発信と課題解決のための基礎をつくる

グローバル社会に対し即応可能な発信力を養うため、複数言語でのプレゼンテーションやライティング、またICTによる情報発信など、目的に応じて多数開講される科目を受講し、十分なコミュニケーション能力を身につけます。また、グローバルイシューの現場で実際に情報を収集・分析するために必要な技能を身に付けることを目的として、多様な人々と協働しつつ課題解決に向けて先導する能力を開発するための「協働型リーダーシップ論」や、フィールド学修を通して実際のグローバルイシューの実態を把握するために必要な基本的技能を培う「フィールドワーク方法論」などの専門科目を学び、実践的対応力を習得します。

2 実践的なグローバルを体験する（詳細は、p.6へ）

グローバルイシューの解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）」を設置しています。このプログラムでは、専門性と希望に応じ用意されたコースの中から、学生全員が自らの海外での学びの場を選択し、学修の具体的な課題を自ら設定して、海外研修と国内外でのフィールド学修に参加します。GSPを通じて得た具体的な体験から、グローバルイシューを解決する際に必要な問題意識や実践的な視点を獲得し、それらを理論的知識に接合して、自らの将来のキャリア形成に活かしていきます。

3 多角的視点から専門的知識を身に付ける

「異文化理解」「人間発達」「環境共生」に視点をおき、多文化をめぐる複雑な問題の解決への道筋を提案する発信力、「人間の発達」の諸相を理解しそれを支えるコミュニティの形成を実現する実践力、共生社会を支える環境の創出と保全に寄与する分析力と行動力、さらに、これと連携し次世代指導者を育成する教育力を身に付けるための専門的知識を学びます。ラーニングコモンズなどの施設、フィールド学修、広い知見と豊富な経験をもつ教員の配置など、全ての形式の授業（講義、演習、実験・実習）においてアクティブ・ラーニングを推進する環境を通じて、専門的知識をベースに、自ら課題を発見し解決する力を養います。



鶴甲第1キャンパス

グローバル文化学科



鶴甲第2キャンパス

発達コミュニティ学科
環境共生学科
子ども教育学科

1年次		2年次	3年次	4年次
基礎能力を得る		専門知識を得る 応用力と実践力を得る		研究に取り組む
教養科目 「複眼的に思考する」「多様性と地球的課題を理解する」「協働して実践する」能力を伸ばすための科目				
グローバル文化学科 発達コミュニティ学科 環境共生学科 子ども教育学科	学部共通科目	グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP） 他者と協働しつつリーダーシップを発揮する知的行動力を身に付けるための実践型教育プログラム		→詳細は p.6
	学科専門科目	[基礎科目] 協働型グローバル人材として活躍するために不可欠な基礎的能力を向上させるための科目 [発展科目] さらに洗練されたグローバルリテラシーを身に付けるための科目		卒業研究
		[共通科目]		
		[コア科目] 各学科において、専門性を深く学修するために必要な基礎的知識を得るための科目 [展開科目] 各学科において、より発展的な専門知識を修得し、実践力、問題解決能力を修得するための科目		

大学院進学
国際文化学研究所
人間発達環境学研究所
その他の国内外の大学院

就職
一般企業 公務員
国際機関 教員
NPO・NGO 等

詳細は、
グローバル文化学科…………… p.10
発達コミュニティ学科 …… p.12
環境共生学科…………… p.14
子ども教育学科…………… p.16

交流スペース



2つのキャンパスには、学生同士が活発に交流できるスペースとして、それぞれ「Intercultural Cafe」（鶴甲第1キャンパス）、「Global Human Science Cafe」（鶴甲第2キャンパス）が置かれています。特に、毎年、世界各国から多くの留学生が学ぶ国際人間科学部では、これらのスペースの利用やそこで実施される行事への参加を通じて、様々な文化的背景を持つ学生と交流し、多種多様な世界の文化に触れ、理解を深めることができます。

ICT関係の設備

無線LAN、学内ネットワーク、PC必修化、図書館データベースなど



国際人間科学部のほぼすべての教室や共有スペースにおいて、学内無線LANへのアクセスが可能です。神戸大学では、高度情報化社会において情報通信技術の十分な活用能力を有する人材を育成し、それらの技術を活用した教育の提供を目的に、パソコンの必修化を実施しています。学修支援システム（BEEF等）を利用した双方向授業、レポートの作成・提出、講義資料の閲覧、電子雑誌・図書の閲覧等にパソコンを活用します。

ラーニングコモンズ (Learning Commons)



ラーニングコモンズとは、学生や教職員が自由に利用できる創造的学習のためのスペースです。教室とは異なるオープンな場であり、学生が自由に入出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であることをコンセプトとしています。国際人間科学部には、鶴甲第1キャンパスに4箇所、鶴甲第2キャンパスに4箇所のラーニングコモンズが設置され、学生同士が話し合いながら行うグループ学習や、ゼミ・発表の準備、プレゼンテーションの練習などに活用されています。

図書館



神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。国際人間科学部では、鶴甲第1キャンパスに総合・国際文化学図書館、鶴甲第2キャンパスに人間科学図書館が設置されています。また、ウェブ上で読める雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースが充実しています。また、ガイダンス、講習会、各種イベントを通して、データベースの使い方やレポートの書き方など、大学生活に役立つスキルを演習形式で学ぶこともできます。

本学部生全員が海外研修とフィールド学修に参加

Global Studies Program (GSP) グローバル・スタディーズ・プログラム

グローバル・スタディーズ・プログラム (GSP) とは、実体験を通してグローバルイシューについて学ぶことを目的とし、本学部生全員が海外研修とフィールド学修に参加する実践型教育プログラムです。国内外の多くのフィールドで実施される個別プログラムへの参加を通じて、グローバル社会の課題解決を目指して多様な人々と協働し、その中でリーダーシップを発揮していくために必要な力を自らの中に育てていきます。

*2020年度～2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大のため、オンライン海外研修や海外代替要素のある国内研修によってプログラムを実施しました。

1 グローバルイシューの現場での実践的な取り組み

「グローバルイシュー概論・演習」を通じ、文理の境界を越えた様々なグローバルイシューについて学びます。そこで培った自らの興味・関心にもとづき、学生自身がテーマ設定をして、海外、国内の「現場(フィールド)」を選択します。フィールドで実際に様々な人々と出会い、協働することを通して、より広い視点から自らのテーマをグローバルイシューとして深化させ、その解決を模索します。

2 多様なプログラム

GSPでは、研修の期間、内容、フィールド学修の場所によって、「実践型」「研修型」「留学型」という3つのグローバル・スタディーズ・コース(GSコース)が設定されています。学生は、自らの学修計画に応じて、一つのGSコースを選択し、さらに各コースのもとにある合計100を超える個別のプログラムの中から、自分が取り組むグローバルイシューに最も適したプログラムに参加します。

3 学生一人一人の専門性に合わせた学修指導—GSPオフィス

GSPでの学修を支援するために、GSPオフィスを設置し、オリエンテーション・リフレクション、渡航ガイダンス、危機管理オリエンテーション等、きめ細かい情報提供と学生の主体性を引き出す指導をしています。

GSPの流れ

GSPは、事前学修、GSコース(海外研修とフィールド学修)、事後学修の3つのステージで構成されます。

3つのGSコース

実践型	<p>海外スタディーツアーまたはインターンシップ</p> <p>国内で学修した専門的知識を海外の現場で応用し、その地域の人々と協働しながら実践的にグローバルイシューに取り組みます。</p>
研修型	<p>海外語学研修またはサマースクールと、国内フィールド学修</p> <p>海外での語学研修やサマースクールに参加し、国際的な視野を獲得すると共に、日本国内でフィールド学修を通じて、比較文化的・多元的な視点からグローバルイシューに取り組みます。</p>
留学型	<p>交換留学または中期留学</p> <p>中長期に亘って海外に滞在し、専門的知識を修得すると共に、現地でフィールド学修を行い、グローバルイシューに取り組みます。</p>

コース選択

事前学修

- グローバルイシュー概論
代表的事例の現状と解決策を専門的見地から学修
- グローバルイシュー演習
アクティブ・ラーニングを通じて具体的な事例を学修
- オリエンテーション
自らが取り組むグローバルイシューに関する具体的な課題を設定

事後学修

- リフレクション
(GSコースでの体験の共有)
- グローバルな課題に対する自己の実践の意義づけ
- フィールド学修についての成果発表とレポート作成

(注) 個別のプログラムへの参加費用や必要となる保険加入等は自己負担となります。海外研修に係る学生の経済的な負担を軽減するため、神戸大学の助成制度や日本政府の支援制度を活用することができます。



GSPオフィス

海外研修やフィールド学修の豊富な経験をもつコーディネーターが常駐しており、学生一人一人がGSPの各科目を効果的に学修し、目的を達成できるよう、学業と海外生活の両面についてアドバイスを行います。各種プログラムに関する最新情報の提供や海外研修のための奨学金の紹介も行っています。渡航前の「オリエンテーション」での危機管理に関するアドバイスの他、神戸大学全体はもちろん、海外危機管理専門の機関とも連携しながら、渡航中の学生の安全確認等を実施します。



コース別プログラム例

- 日本で学び、海外でフィールド学修を行う**
 - 日英の家庭教育支援を比較研究する(イギリス)
 - 非破壊機材で農産物分析をする(カセサート大学(タイ))
 - バリで環境教育を学ぶ(インドネシア)
 - アートマネジメント・芸術教育を学ぶ(オーストリア)
- 海外と日本で学び、日本でフィールド学修を行う**
 - 民族文化の継承…… 民族音楽を学ぶ(イラン)+人形浄瑠璃に関するフィールドワーク(淡路島)
 - 移民児童の教育…… 英語研修(ウェスタン大学(カナダ))+外国人児童支援NGOでインターン(神戸市)
 - アカデミック英語研修(ケンブリッジ大学ホマートンカレッジ)+サイエンスショップでボランティア
- 海外の大学で学び、海外でフィールド学修を行う**
 - 交換留学**
1年もしくは半年の協定校(p.28参照)との交換留学です。神戸大学に学費を納める代わりに、協定校での学費・入学金を免除されます。協定校で修得した単位を神戸大学の単位として算入することができます。留学を計画的に行えば、4年間での卒業が可能です。
 - 中期留学**
4週間から6か月にわたって、英語研修や専門の講義を受講すると同時に、自ら企画・設定したフィールド学修に取り組みます。

GSPオフィス教員

室長	村尾 元 教授
副室長	野中哲士 教授
統括コーディネーター	落合知子 准教授
コーディネーター	正楽 藍 講師
コーディネーター	榎井克明 講師
コーディネーター	篠原華子 助教
コーディネーター	武田和代 助教



GSPに関するQ&A

グローバル体験

GSPを通して、国内外で様々な体験をした先輩たちのメッセージを紹介します。



様々な国の学生と交流して広がった自分の視野

GSP留学型（中期）：高麗大学校
インターナショナル・サマー・キャンパス
[オンライン]

池岡拓登

環境共生学科 4年

留学型
GSコース

私は1年次から海外に関心を抱き、複数の海外研修プログラムに参加してきました。言語や異文化という壁を不安に感じることもありましたが、学生時代に挑戦したいと思ったことを行動に移してみるべきだと思ったからです。そして実際に、その経験、特に同世代の外国人の学生と交流して新しい価値観や友人に出会えたことは、自分自身の可能性やキャリアに関する視野を格段に広げてくれました。これからも、グローバルな視野を取り入れながら、異なる価値観をもつ多様な方々と協働していきたいと考えています。



言葉の壁を越え心をつなげる音楽の力

GSP実践型：ノードフ・ロビンズ音楽療法
基礎・即興・臨床夏季集中講座とその報告会
[オンライン]

藤澤萌咲

発達コミュニティ学科 4年

実践型
GSコース

私は心理学と音楽を学んでおり音楽療法にとっても興味があったため、兼ねてから希望していたこのプログラムに参加しました。時差や英語面での不安も大きかったですが、実際は毎日楽しくあつという間でもっと続けていたいほどでした。講義では、音楽療法の様々な事例から音楽技術やクライアントの変化について勉強し、また受講生同士のセッションでは言葉よりも音楽で会話をするという貴重な体験を通して、音楽特有の「心へ深く語りかける力」を目の当たりにしました。将来、心理学と音楽の両面から誰かの力になれるように、勉強を続けて行きたいです。

留学生メッセージ



神戸大学で過ごした時間

Gonzalez Angel ゴンザレス・アンジェル

[出身国] ベネズエラ

数年間独学で日本語を勉強した後、日本語と日本社会全体への理解を深めたいと思うようになりました。そのために、神戸大学に正規生として入学しました。神戸大学で過ごした時間は、柔軟な学習プログラムと親切な先生方のおかげで、私にとって非常に有意義な期間となりました。また、神戸大学に在籍している間に、日本に住む外国人がどのように日本社会に適応し、溶け込んでいるのかに興味を持つようになりました。GSPのおかげで、外国人と日本人学生の意見や考えを調べることができました。神戸大学で過ごした時間に感謝しています。

Global Experiences



教育の実態を調査して

GSP研修型（国内）：京都美山
GSP研修型（海外）：海外オンライン教材を活用した
アカデミックコース [オンライン]

小山翔輝

子ども教育学科 3年

研修型
GSコース

私は教育格差に関心があり、こうした問題が国内でも起こっていることに注目してこの2つのプログラムを選びました。1つ目は京都美山を訪れ現地の文化や風習に触れると共に、積極的に教育関連の質問を行い、京都の山奥で行われている教育の実態を知ることができました。オンラインプログラムでは教育格差の解決策の1つである遠隔授業の運営や取り組みを教師と生徒両方の目線から学ぶことができ、教育とは生徒と教師の相互作用だけでなく環境も大きく関係しているのだと改めて考えさせられました。この学びを将来に生かしていければと思います。



プログラムを通して見えた「私のビジョン」

GSP研修型（国内）：アートによる都市再生と多文化
共生プログラム（神戸）など
GSP実践型：フランスとベルギー：文化研修プログラム
[オンライン]

小菅葉月

グローバル文化学科 3年

研修型
実践型
GSコース

プログラムへの参加のきっかけは「芸術や文学が好き」というごく単純なものでしたが、結果的に自分の進路を見つめ直す貴重な機会となりました。「芸術や文学は、時代や人々の思想を反映し、社会と大きく関わっているものだからこそ、人々の内面に働きかけ、相互理解を促進し、生活をより豊かにしている」と実感したことで、それらが社会に貢献する方法を探求したいと思うようになりました。プログラムから得た知識と経験を文化活動の盛んなフランスでの学びに活かし、将来は研究活動を通して日欧の絆を深めることに寄与したいと考えています。



挑戦する者の勝ち

Aishwarya Asnani アイシュワリヤ・アスナーニ

[出身国] インド

本学に入学し、改めて物事を自分の身を持って知るとい言葉の重要性に気付きました！インド出身の私は、神戸大学で4年間を過ごし、楽しい時もある辛い時もありました。しかし本学で仲良くなった学生及び先生方のおかげで、それらの困難を笑顔で乗り越えることができました。学部の時にフィールドワークを実践することができる本学により、私は淡路島、喜界島という広い範囲で研修を行う、研究者として身に付けるスキルはもちろん、一人の人としても、就職に備え自分のスキルセットをアップすることができました。自分のコンフォートゾーンから抜け出し、踏み込めない領域でも勇気を持って挑戦する！と本学から学びました。



学部を構成する4学科

グローバル文化学科 10

地域文化系プログラム
異文化コミュニケーション系プログラム
現代文化システム系プログラム
言語情報コミュニケーション系プログラム

取得可能な学位：学士（学術）(Bachelor of Arts)

発達コミュニティ学科 12

社会エンバウメントプログラム
心の探究プログラム
アクティブライフプログラム
ミュージックコミュニケーションプログラム
アートコミュニケーションプログラム

取得可能な学位：学士（学術）(Bachelor of Arts)

環境共生学科 14

環境自然科学プログラム
環境数理科学プログラム
生活共生科学プログラム
社会共生科学プログラム

取得可能な学位：学士（学術）(Bachelor of Arts)

子ども教育学科 16

学校教育学コース
乳幼児教育学コース

取得可能な学位：学士（学術）(Bachelor of Arts)
学士（教育学）(Bachelor of Education)

Department of Global Cultures

グローバル文化学科

本学科では、多文化間の境界を乗り越えるグローバル共生社会を実現するため、高度な外国語の運用能力とICT教育に基づく情報分析力や発信力を駆使して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推し進め、多文化状況、文化交流、文化摩擦等をめぐるグローバルな課題の解決への道筋を社会に発信する能力をもつ人材を養成することを目標とします。この目標を達成するために、「地域文化系」「異文化コミュニケーション系」「現代文化システム系」「言語情報コミュニケーション系」の4つの教育研究の柱を置き、これらの切り口から人間社会における多様なグローバル 이슈を解決する糸口を探していきます。

予想される進路

本学科が育成するグローバルな課題に関するリーダーシップを発揮できる人材は、現代社会の幅広い分野で求められています。卒業生の進路としては、海外展開の活発な製造業、マスコミ、情報通信業、金融業の他、外務省・経済産業省や各都道府県などの国家・地方公務員、JICA・兵庫県国際交流協会等の国際協力機関に加え、大学院進学等が考えられます。

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

学びの特色

1 高い専門性とリーダーシップを備えた人材を養成する

本学科の軸となる4つの柱「地域文化系」「異文化コミュニケーション系」「現代文化システム系」「言語情報コミュニケーション系」、それぞれに対して教育プログラムを設定しています。各自の興味や将来の進路などの目的に応じて、教育プログラムの枠を超えた柔軟な授業の選択が可能です。

2 多彩な学際的カリキュラムを通して、専門的能力を身に付ける

それぞれの専門的能力を、受入留学生を交えた国際共修授業はもとより、多彩な語学教育、長期の交換留学制度、国内外でのフィールドリサーチやインターンシップ等、多様なアクティブ・ラーニングを利用して修得できるカリキュラムを用意しています。さらに、3年後期から4年前期にかけて「グローバル文化特別演習」において指導教員のきめ細やかな指導により学修を深め、4年次に学修の総仕上げとして「卒業研究」を行い、卒業論文を作成します。

3 「留学したい」を後押しする、長期留学をサポートするカリキュラム

選抜を経て協定大学に留学する交換留学プログラムでは、留学先で修得した授業の単位は神戸大学の単位として認定することができます。また、正規の留学中も、神戸大学に在学していますので、これらを上手く利用すれば、1年間の長期留学を含めても4年間で卒業することが可能です。

国境を越えたコミュニケーションを推進できるリーダーシップを備えた人材を養成する

地域文化系プログラム

21世紀の世界に存在する多様な文化や価値観を地域別に研究します。また、そうした地域の文化や価値観がどのように形成され、持続・変容してきたのかを、さまざまな学問アプローチから捉え、比較的・相対的な視点から地域文化を理解する力を身に付けます。

【学問領域】

日本、ヨーロッパ、ロシア・スラブ、北アメリカ、中・南アメリカ、東アジア、東南アジア、オセアニアなどの地域研究

異文化コミュニケーション系プログラム

社会経済のグローバル化に伴い、異文化間相互の分裂と統合が、国内および国境を越えて拡大しているという世界の動きを踏まえ、異文化間コミュニケーションのあり方を明らかにし、異なる文化が対話可能となるような方法を考察する能力を身に付けます。

【学問領域】

文化人類学、比較政治、国際関係論、科学史、比較文学

現代文化システム系プログラム

近代的な制度や思考の枠組みが根底から揺らぐなかで、グローバルな規模で広がる今日的な問題群に焦点を当て、現代世界を動かしている社会・文化のシステムを多角的に分析し、現代という時代について批判的に洞察する力を身につけます。

【学問領域】

社会思想史、社会学（ジェンダー、メディア、移民・難民、貧困）、法哲学、美学、表象文化論、美術史、舞台芸術論、芸術政策

言語情報コミュニケーション系プログラム

言語・感性によるコミュニケーションの可能性と問題点を発見し解析する能力や、ICTを用いた多彩な情報の収集・分析・発信に関わる能力を育成し、これらの研究成果をグローバルな課題解決に活用する能力を身に付けます。

【学問領域】

言語学、日本語教育、外国語教育、認知心理学、認知神経科学、非言語コミュニケーション、ITコミュニケーション、ソーシャルコンピューティング、情報科学、コミュニケーションデザイン

【卒業論文の例】

- ◎『申報』広告欄にみる纏足と放足
- ◎台湾における性的マイノリティ
- ◎マレーシアの「ルック・イースト政策」における日本留学の考察
- ◎若者に対する政治教育のアプローチ—ドイツと日本における模擬選挙プログラムの事例分析を通して
- ◎タイ人シェフの職業生活世界について—神戸・三宮で働くタイ人シェフを例に
- ◎ポーランド社会における反ユダヤ主義をめぐる議論—映画Poklosie が与えた余波
- ◎水洗トイレのイノベーションと日本人の排泄観

【卒業論文の例】

- ◎パレスチナ刺繍の伝統と変遷—刺繍からまなぐパレスチナ問題
- ◎現代アメリカにおける政治的分極化の要因—党派性、アイデンティティ、ソーシャルメディアから見るメカニズム
- ◎イギリス医師会の政治的主張と活動2000年以降のNHS政策を通して
- ◎「不可視化」される人々—日朝「ダブル」のライフ・ストーリーを通して
- ◎電力システム改革の政治過程分析—震災以降の日本のエネルギー政策の検証
- ◎若者の自立支援政策の意義とその拡充に至る政治的条件について
- ◎東アジア地域主義を巡る国際関係—日本と中国の東アジア構想
- ◎ドイツの国籍法改正におけるネーション理解の変化について

【卒業論文の例】

- ◎ハンナ・アーレントの行為論—「複数性」の果たす役割をめぐって
- ◎M・フーコーにおける(新)自由主義批判—「生政治」概念をてがかりに
- ◎生成と秩序—カール・シュミットの近代批判・再考
- ◎「ハイジ」をめぐるアダプテーション—高畑勲監督アニメ『アルプスの少女ハイジ』の位置づけ
- ◎トーマス・ルフの作品における写真表現の可能性をめぐって
- ◎NGOの協働と構造的弱点—現場の語りから考える日本とフィリピン貧困地域のNGOが直面している困難
- ◎中国系ニューカマーの子どもと日本の学校教育—神戸市中央区を例に
- ◎スウェーデン福祉国家における極右政党の大躍進と移民問題

【卒業論文の例】

- ◎インドネシア文学の翻訳比較研究—『Laskar Pelangi』を例に
- ◎二者間相互作用におけるシンクロニーに話者特性が及ぼす影響
- ◎課題非関連な恐怖刺激への注意捕捉
- ◎演劇評価尺度の構築—Twitterによる語彙収集および印象評定実験による妥当性・信頼性の検証
- ◎集合知を利用したレシピの食感テクスチャー表現の研究
- ◎宝塚はジェンダーロールを誇張するか—『ロミオとジュリエット』の日本語訳とその舞台化
- ◎国際系学部1年生の英語学習動機づけ
- ◎スポーツ選手の第二言語習得に見る学習ストラテジーについて

発達コミュニティ学科

人間の多様な発達と、その発達を支えるコミュニティ（多様な人々が協働する社会）を実現するために必要な能力を身に付けた人材の養成を目指します。この目的を踏まえ、人間の心理的発達や身体的発達、表現や行動の機能発達など、人間の生涯全体に関わる課題解決を行うために必要な基礎的な専門教育を行う「発達基礎」、人間の多様な発達の相互関係に着目し、グローバル社会と個人をつなぐコミュニティに関する理論の構築と実践的な課題解決を行うために必要な専門教育を行う「コミュニティ形成」という2本の柱を設定します。

予想される進路

卒業後の進路として、自治体や企業における組織・人事戦略コンサルタント、家庭裁判所調査官、地域コミュニティ創生支援事業・人材育成事業の指導者、行政や自治体の専門職、健康関連企業での専門職、国際連合機関（ユネスコ、世界保健機関等）、大学院進学等が予想されます。

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

学びの特色

1 広い基礎知識を学び、 学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて人間の発達とコミュニティについての幅広い知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 教育プログラムを通して、 高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路などに応じて、5つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を選択して受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 国内外の海外研修、フィールドワーク を通じて実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講により高度な専門性を身に付けると同時に、国内外における活動を通じて実践的な問題解決能力を鍛えます。現場実践によって醸成した問題意識をより明確な課題設定へとつなげ、その解決に必要な具体的な手法を体系的・段階的に学びます。

人間の発達とそれを支えるコミュニティの実現に取り組む人材を養成する

社会エンパワメントプログラム

社会の様々な局面で生じる課題に人々がコミットしてゆくための方法、対人支援やコミュニティ支援に関する幅広い知識や技術を学び、あらゆる人の多様なエンパワメントを通してグローバルな社会課題が解決される専門的方法論を身につけます。

【学問領域】

ESD論、社会教育・生涯学習論、障害者共生支援論、ジェンダー論、福祉教育・ボランティア学習論、臨床哲学、自然共生社会論、多文化・子ども支援論

心の探究プログラム

人々の心の発達の諸相における課題を発見しその解決へと導くために、人の心とその発達を適切な方法で理解・測定する基礎的能力、現代社会の多様な支援ニーズへの対応方法についての実践的な専門的能力を身につけます。

【学問領域】

臨床心理学、芸術療法、スクールカウンセリング、臨床心理検査法、発達臨床心理学、生涯発達心理学、睡眠心理学、教育心理学、人格心理学、健康心理学、障害者心理学

アクティブライフプログラム

人々が健康で活動的なライフスタイルを実現するために、心身の健康やエイジング、運動行動、スポーツ活動などについて原理や方法を理解・分析する基礎的能力や創造的・実践的な専門的能力を身につけます。

【学問領域】

生活習慣と心身の健康、社会心理学、社会老年学、加齢の健康行動科学、加齢の認知心理学、加齢の身体運動科学、応用生理学、運動生理学、運動生化学、スポーツ技術論、運動心理学、スポーツ社会学、体育・スポーツ史、応用身体運動科学、公衆衛生学、バイオメカニクス

ミュージックコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、音楽の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、音楽の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

【学問領域】

音楽療法、音楽文化史、民族音楽学、即興など演奏法・演奏論、音楽美学、音楽教育、音楽社会学、音楽理論、音楽音響制作、音楽表現学

アートコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、文化・芸術について多面的に理解・探究する総合的能力、美術の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

【学問領域】

舞踊学、絵画表現、近代建築史、ファッション文化論、社会情報学、認知科学、パフォーマンス科学、認知身体性科学

【卒業論文の例】

- ◎生きづらさに着目した日本におけるギフトド定義の再検討―当事者研究を介して
- ◎若者の転出者における空き家に対する意識と地元への愛着に関する研究―兵庫県佐用町を事例にして
- ◎高齢化コミュニティにおける音楽の活用―歌唱がもたらす作用に着目して
- ◎大学教育における協働学習の意味と課題―多文化交流社会の実現に向けて
- ◎「授業における子どもの学び」を捉える教師の視点と葛藤の意味

【卒業論文の例】

- ◎認知のゆがみが援助要請の利益・コストの予期に与える影響の検討
- ◎就職決定後の就職不安と仮想的有能感の関連について
- ◎報酬分配と責任分配における分配原理の違いが対人魅力に及ぼす効果
- ◎ライフイベント経験におけるレジリエンスとコーピングの関係
- ◎マジック状況における言葉によるミスディレクションの効果の検討

【卒業論文の例】

- ◎成長期における食行動と心身の健康との関連性
- ◎高齢者における歩行過渡期の歩行特性―移動する床面からの歩行に着目して
- ◎認知バイアスと感情調整に年齢が及ぼす影響
- ◎社会的ネットワークが高齢者の運動習慣に及ぼす影響
- ◎新しい男性役割と結婚・恋愛に関する調査研究
- ◎季節変化がヒトの発汗機能に及ぼす影響

【卒業論文の例】

- ◎認知症高齢者の回想音楽療法における選曲
- ◎入院児童対象の音楽療法―「音楽で遊ぶ」ことの意義と役割
- ◎浅草オペラの地域受容―上演記録を通じて
- ◎戦前日本におけるモーリス・ラヴェル受容―『音楽新潮』特集記事の分析を中心に
- ◎『ミカド』上演演出の変容を探る―「イエローフェイス」問題の考察から
- ◎関西における交響楽の受容史

【卒業論文の例】

- ◎舞踊表現における共有感に関する考察
- ◎神戸のファッション文化の発展―紳士服からニュートラ、神戸系ファッションまで
- ◎振付創作プロセスにおけるコンテンポラリーダンス作品の変容―環境との関係に着目して
- ◎音楽聴取と想起される図形イメージの関連性について―音楽の音色と調性を中心に

Department of Environment and Sustainability

環境共生学科

人間と環境の調和に根ざす持続可能なグローバル共生社会の実現を目指し、身近な環境から地球環境に至る幅広い環境について、様々な問題を発見・立論し、解決に導くために必要な能力を有し、さらに、国際的な視野から課題に取り組む行動力を身に付けた人材を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、環境の成り立ちを解析し、課題を発見・立論するために必要な基礎科学の専門教育を行う「環境基礎科学」、環境改善のための技術・システム、政府・自治体の政策、教育と市民参加、企業・NPO・NGO等の活動に関する専門教育を行う「環境形成科学」という2本の柱を設定しています。

予想される進路

卒業後の進路として、環境保全、都市開発、街づくり、農村計画、防災政策などに携わる国家・地方公務員、インフラ、エネルギー、ディベロッパー、各種メーカーなどの企業、NPO、NGO、中学校・高等学校教員、大学院進学等が予想されます。

得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

学びの特色

1 広い基礎知識を学び、 学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて環境共生学についての幅広い基礎知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 教育プログラムを通して、 高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路など目的に応じて、4つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 海外研修、フィールドワークを通して、 エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講に加え、国内外でのフィールドワーク、多彩な調査、最先端の科学実験などにより高度な専門性を身に付けると同時に、多様な環境改善プロジェクトやNPO・NGO等の環境関連活動への参加を通じて、実践的な問題解決能力を培います。

グローバル共生社会を支える環境を創り出す文理融合型人材を養成する

環境自然科学プログラム

地球規模の環境問題を引き起こす多様な要因や問題が顕在化するまでの複雑なメカニズムを解明し、解決策を提案するために、自然の成り立ちや法則の理解を基礎として、フィールドワーク・科学実験・データ解析などの調査・分析・解析手法について学びます。

【学問領域】

環境物理学、物質環境、地球環境、生物環境

環境数理科学プログラム

環境に潜む様々な現象を数理的な手法で解明し、人間と環境のよい共生関係を論理的かつ緻密にデザインするために、数理科学に関する基礎知識を身に付け、諸問題に対する新しい分析方法について学びます。

【学問領域】

数理モデル、現象解析、数理統計、計算機科学

生活共生科学プログラム

日常生活における人と人、人と環境のよりよい共生関係をデザインするために、フィールドワーク、各種調査、科学実験の基礎的な技能を身に付け、幅広い問題を発見・立論するとともに、課題解決に向け、実践的な技術開発、環境設計、政策立案について学びます。

【学問領域】

衣環境論、食環境論、生活空間計画論、アプライアンス環境論、環境経済学、地域環境資源論、環境保健学、緑地環境論

社会共生科学プログラム

文化・政治・経済・社会・地域等における様々な対立を乗り越えるために、グローバル社会における共生のあるべき姿を考えます。身近な環境からグローバルな環境に至る様々な課題を発見し、その原因と解決について学びます。国内外でのフィールド調査・文献調査を通して、実践力を身に付けます。

【学問領域】

国際関係論、途上国開発論、国際環境法、地域社会論、福祉環境論、社会環境思想論

【卒業論文の例】

- ◎植物の3次元高感度イメージングに関する研究
- ◎農業生態系における生物多様性の維持機構の解明
- ◎マヤサンオサムシの地理的変異と生殖隔離
- ◎環境DNA分析を用いた希少生物の分布調査
- ◎CO₂固定酵素ルビスコの機能解析と光合成改良への応用研究
- ◎あらゆるウイルスと結合する人工核酸の合成
- ◎振動分光法を用いた生分解性高分子の構造と物性に関する研究
- ◎生命の起源のシミュレーション
- ◎最終氷期以降の北太平洋における海洋環境変遷の研究
- ◎地球惑星環境における水物質の物性

【卒業論文の例】

- ◎連続ドラマ視聴率の解析
- ◎保険数理における信頼性理論
- ◎微分方程式モデルによる社会事象の分析
- ◎インフルエンザによる学級閉鎖の基準制定の影響
- ◎倒産企業の統計的分析
- ◎数理モデルを用いた保険料の算定
- ◎スマートデバイスに対応した数学アプリケーションの開発
- ◎チューリングマシンと計算量のクラスについて
- ◎高等学校数学科におけるICTの活用
- ◎ゲーム理論とナッシュ均衡

【卒業論文の例】

- ◎中高年単身者の生活空間に関する研究
- ◎都市再開発における社会的批判のコントロールに関する研究
- ◎ジェンダーの視点からみた高齢期の生活空間
- ◎環境未来都市構想に関する取組の効果と課題の検証
- ◎超高齢社会の進展が自治体ごみ処理システムにおよぼす環境的影響の評価
- ◎グリーン・コンフリクトを考慮した太陽光発電所の包括的評価
- ◎兵庫県における森林資源のエネルギー利用可能量の推計
- ◎六甲山の景観保全に対する観光客の支払意思額の評価
- ◎自然型再開発リゾート施設の評価と可能性
- ◎都市緑地における生物多様性の経済価値評価

【卒業論文の例】

- ◎オーストラリア先住民文化と創造の可能性
- ◎企業のSDGs活動—持続可能な社会に向けて企業ができること
- ◎学びにおける「欲望」について—自分の学びを見つけるために
- ◎日本の移民政策の課題と日本語教育の役割
—神戸市・東灘日本語教室を事例に
- ◎電気自動車は本当に地球に優しいのか—環境、経済を含めた総合的考察
- ◎ネットを介した仮想的なコミュニケーションが拓く可能性
- ◎日本人と定住外国人の関係性—共生概念の再検討
- ◎日本の児童文学における障害者表象
- ◎インフラ発展による開発途上国の発展—回廊開発アプローチの正当性

Department of Child Education

子ども教育学科

次世代育成を通じたグローバル共生社会の実現を目指し、グローバル社会に関わる幅広い視野を持ちながら、子どもと学校が抱える課題を多面的に認識し、実践的に解決していく能力を身に付けた初等教育教員等を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、初等教育を構成する「学校教育学」と「乳幼児教育学」の2つのコースを設け、世界と日本の学校教育、国際文化理解教育など、グローバル共生社会の実現に向けた教育の現状と課題について理解を深めた後、コースごとの体系的な教育研究を行っていきます。

予想される進路

卒業後の進路として、小学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員、公務員（教育行政職）、（実務経験を経た後）教育に関わる国際機関職員、教育関連企業、大学院進学等が予想されます。

取得可能な学位：学士（学術）(Bachelor of Arts)
学士（教育学）(Bachelor of Education)

学びの特色

1 幅広い基礎知識を得て 方向性を選択する

1年次は、概論等の講義を通じ、未来のグローバル共生社会を創り出す子どもの教育について原理的諸側面と教科的諸側面を中心に、多角的な知見と探究方法論を修得し、基礎的な能力を身に付けます。同時に、幅広い専門科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 コースごとの学修を通して、 高い専門性を身に付ける

将来の進路など目的に応じて、2つのコースから1つのコースを選択します。それぞれのコースで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 理論と実践の往還を通して、 エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える

大学での専門科目の受講によって身に付けた高度な専門性を、附属学校園を含む国内外の学校現場での教育実習やインターンシップの経験と連関させ、初等教育教員としての実践的指導力、子どもの教育を学問的に探究するための研究能力を鍛えます。

現代社会の文化的多様性を尊重した子ども教育に取り組む人材を養成する

学校教育学コース

主に教育学、教科内容・指導論、心理学の専門性に基づいて、義務教育の基盤である小学校を中心とした教育理念、制度、教育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、インクルーシブ教育の観点から、障害のある子どもに対する特別支援教育に関する教育研究を行います。

[学問領域]

学校教育学、教育内容・指導論、特別支援教育学、障害児支援学

[卒業論文の例]

- ◎コア・カリキュラム実践における教師の役割―戦後初期の明石附小プランに着目して
- ◎大村はま単元学習におけるグループ学習―1972～74年度の実践記録に着目して
- ◎「主体的な学力」を育成するための「学習帳」の有効性について―東井義雄の「学習帳」実践に着目して
- ◎鹿島和夫の「あのねちょう」教育―「考える子ども」を育てるために
- ◎日本の教員文化に関する研究―教員集団の変容と新任教員の困難に着目して
- ◎小学校教師の教師効力感に影響を及ぼす職場の人間関係・労働環境の検討
- ◎パンデミック下における学校の休校と再開をめぐる教育政策過程の特質と課題
- ◎小学校教師が語るひとり親家庭の認識と支援に関する研究
- ◎貧困の世代的再生産防止に向けた保護者支援策の意義と展開
- ◎SNSが生み出す社会分断を題材とした社会科授業開発―擬似的に社会分断を体験する授業を通して
- ◎「防災小説」を活用した社会科防災学習の開発―災害に対する想像力の育成を目指して
- ◎小学校中学年における等号の理解と指導
- ◎科学技術の社会問題を題材とした小学生向け改善版教育プログラムの評価―教師の学習支援に着目して
- ◎小学校外国語科における英語絵本の活用に向けた基礎研究
- ◎小学校外国語科におけるコミュニケーション能力の育成―方略的能力の育成に着目したコミュニケーション活動の提案

乳幼児教育学コース

主に教育学、保育内容・指導論、心理学の専門性に基づき、生涯にわたる人格形成の基盤である乳幼児期を中心とした教育理念、制度、保育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、幼小連携教育の観点から、小学校教育の内容と方法等に関する教育研究を行います。

[学問領域]

乳幼児教育学、保育内容・指導論、乳幼児心理学

[卒業論文の例]

- ◎異年齢保育実践において保育者が目指す幼児の育ち
- ◎日本におけるドキュメンテーションの活用―記録の分析と保育者への聞き取り調査をもとに
- ◎園における子どもたちの共感の実態とその育ちへの保育者の援助に関する研究
- ◎プロジェクト型保育の視点からみた幼児期におけるインクルーシブ保育の可能性
- ◎園における相談援助に関する研究
- ◎英語圏諸国の多文化を背景とする幼児に対する多文化教育
- ◎多文化保育における保育者の関わりについて
- ◎イングランドにおける就学前教育と初等学校教育の接続について―乳幼児期基礎段階とキー・ステージ1のカリキュラムと環境構成に着目して
- ◎園におけるICTの活用―K市の実態調査を中心に
- ◎子育て中の保育士のワーク・ライフ・バランス実現を可能にする職場サポートのあり方
- ◎絵本における同一化視点の検討―「こどものとも」を事例として
- ◎物語絵本におけるオノマトペの使用実態と機能
- ◎園庭づくりにおける教育的意図に関する事例―K幼稚園の園庭改修のあゆみを中心に
- ◎冒険遊び場における子どもの遊びの研究―プレーリーダーの関わり方に着目して
- ◎一時預かり事業を利用するまでのプロセスとその要因
- ◎初任期の保育者が抱える保護者支援の困難さ
- ◎子を持つ女性が社会復帰時に行う就労選択についての研究―短時間正社員就労と非正規パートタイム就労に着目して

グローバル文化学科

		1年次	2年次	3年次	4年次	
教養科目	情報基礎科目(1年次) 健康・スポーツ関連科目(1年次)	基礎教養科目 総合教養科目 外国語科目				高度教養科目
	GSP	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習 GSP演習(オリエンテーション)	GSP(留学期GSコース、実践型GSコース、研修型GSコース)	GSP演習(リフレクション)		
学部共通科目	基礎・発展科目	<p>[基礎科目] 初年次セミナー 協働型リーダーシップ論 国際開発援助論(JICA) コミュニティ創成論 フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンバワメント論 情報リテラシー演習1,2 アジア共同体論1,2</p> <p>[発展科目] グローバル共生社会論 Test Preparation Academic Skills 国際コミュニケーション演習A, B</p>	<p>[発展科目] フィールドワーク方法論 Academic Communication(英、独、仏) Academic Writing(英、独、仏) コア語入門1,2 スペイン語入門1,2 イタリア語入門1,2 ラテン語入門1,2</p> <p>[発展科目] Cultures and Societies in Japan A, B 日本語コミュニケーション1,2 情報発信演習1,2 プログラミング基礎演習1,2 ESD演習I1, I2, II1, II2(国際人間科学)</p>	<p>[発展科目] English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes</p> <p>[発展科目] 外国語実習A, B インターンシップ実習A, B フィールドワーク実習A, B 日本語文法基礎 実践日本語基礎 日本語・日本文化基礎演習</p>		
	共通科目	情報科学概論 地域文化概論 異文化コミュニケーション概論 現代文化システム概論 言語情報コミュニケーション概論 Oxbridge English Summer Camp 1	日欧比較セミナーIA, IB, IIA, IIB, IIIA, IIIB Aspects of EU Culture and Society (Lecture) A, B Aspects of EU Culture and Society (Seminar) A, B EUエキスパート人材養成プログラム特別講義 Lectures on Social Dynamics Lectures on Cultural Formations Lectures on Global Communication Oxbridge English Summer Camp 2	日欧比較セミナーIIIA, B Study on Global Cultures		
学部専門科目	コア・展開科目	<p>[コア科目] 日本社会文化論 東アジア政治社会論 環大西洋文化論</p> <p>[展開科目] 地域文化論基礎演習I</p>	<p>[展開科目] 日本思想文化論、日本文化交流論 東アジア文化論 日本歴史文化論 オセアニア社会文化論 北アジア歴史社会論 東南アジア社会文化論 東南アジア政治文化論 アメリカ社会論 アメリカ文化論 英米テキスト文化論 宗教文化論 ヨーロッパ社会文化論</p>	<p>[展開科目] 労働環境史 地域社会共生論 地域文化論基礎演習II 地域文化論発展演習I</p>	<p>[展開科目] コミュニティと表象 メディア論 社会調査法A, B</p> <p>[展開科目] 地域文化論発展演習II グローバル文化特別演習I</p>	<p>[展開科目] グローバル文化特別演習II</p> <p>卒業研究</p>
	コア・展開科目	<p>[コア科目] 文化人類学 越境文化形成論 国際関係論</p> <p>[展開科目] 異文化コミュニケーション論 基礎演習I</p>	<p>[展開科目] 現代社会人類学 環境民族誌学 比較民族学 文化混交論 科学技術文明論 比較文化論 文化翻訳論 越境社会文化論 多文化政治社会論 比較政策論 比較政治社会論 平和構築論</p>	<p>[展開科目] 公衆衛生学 環境経済学 地域社会共生論 異文化コミュニケーション論基礎演習II 異文化コミュニケーション論発展演習I</p>	<p>[展開科目] 社会調査法A, B</p> <p>[展開科目] 異文化コミュニケーション論発展演習II グローバル文化特別演習I</p>	<p>[展開科目] グローバル文化特別演習II</p> <p>卒業研究</p>
	コア・展開科目	<p>[コア科目] 近現代社会思想論 現代社会学論 文化政策論</p> <p>[展開科目] 現代文化システム論基礎演習I</p>	<p>[展開科目] 近現代文化言説論 近現代表象文化論 近現代経済思想論 近現代政治思想論 グローバル正義論 ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論 現代規範論 近現代アート論 芸術文化表象論 視覚文化論 表象文化形成論 芸術文化環境論</p>	<p>[展開科目] コミュニティと表象 シアトリカル・アート論 コミュニティ・ジェンダー論 公衆衛生学 環境経済学 生活空間計画論 環境思想史 労働環境史 現代文化システム論基礎演習II 現代文化システム論発展演習I</p>	<p>[展開科目] コミュニティと都市 メディア論 社会調査法A, B</p> <p>[展開科目] 現代文化システム論発展演習II グローバル文化特別演習I</p>	<p>[展開科目] グローバル文化特別演習II</p> <p>卒業研究</p>
	コア・展開科目	<p>[コア科目] 第二言語習得論 非言語コミュニケーション論 現代IT入門</p> <p>[展開科目] 心理学の基礎と歩み(心理学概論) 言語情報コミュニケーション論 基礎演習I</p>	<p>[展開科目] 言語機能論 コミュニケーション表現論 翻訳コミュニケーション論 音声コミュニケーション論 コミュニケーション構造論 コミュニケーション比較論 認知コミュニケーション論(知覚・認知心理学) ITコミュニケーションデザイン 社会システム科学 データマネージメント グローバル・イングリッシュ・ヒストリー 日本語・日本事情演習 知覚と行為(知覚・認知心理学) 生活空間計画論</p>	<p>[展開科目] 言語情報コミュニケーション論基礎演習II 言語情報コミュニケーション論発展演習I</p>	<p>[展開科目] 言語情報コミュニケーション論発展演習II グローバル文化特別演習I</p>	<p>[展開科目] グローバル文化特別演習II</p> <p>卒業研究</p>

(注) 2年次後期の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

発達コミュニティ学科

		1年次	2年次	3年次	4年次	
教養科目	情報基礎科目(1年次) 健康・スポーツ関連科目(1年次)	基礎教養科目 総合教養科目 外国語科目				高度教養科目
	GSP	グローバルイシュー概論 GSP演習(オリエンテーション)	グローバルイシュー演習 GSP(留学期GSコース、実践型GSコース、研修型GSコース)	GSP演習(リフレクション)		
学部共通科目	基礎・発展科目	<p>[基礎科目] 初年次セミナー／協働型リーダーシップ論 国際開発援助論(JICA)／コミュニティ創成論 フィールドワーク基礎論／異文化間教育論 ソーシャルエンバワメント論 情報リテラシー演習1,2／アジア共同体論1,2</p> <p>[発展科目] グローバル共生社会論／Test Preparation Academic Skills／国際コミュニケーション演習A, B</p>	<p>[発展科目] フィールドワーク方法論／Academic Communication(英、独、仏) Academic Writing(英、独、仏)／コア語入門1,2 スペイン語入門1,2／イタリア語入門1,2／ラテン語入門1,2</p> <p>[発展科目] Cultures and Societies in Japan A, B 日本語コミュニケーション1,2／情報発信演習1,2 プログラミング基礎演習1,2 ESD演習I1, I2, II1, II2(国際人間科学)</p>	<p>[発展科目] English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes</p> <p>[発展科目] 外国語実習A, B インターンシップ実習A, B フィールドワーク実習A, B 日本語文法基礎 実践日本語基礎／日本語・日本文化基礎演習</p>		
	共通	発達コミュニティ概論 地域社会学		発達コミュニティ演習1	発達コミュニティ演習2	
学部専門科目	コア・展開科目	<p>[コア科目] 人とアート論 社会教育計画論</p>	<p>[コア科目] 障害共生教育論／コミュニティ・ジェンダー論 健康心理学(健康・医療心理学)／スポーツプロモーション論 ミュージックセラピー／身体表現論</p> <p>[展開科目] 社会教育課題研究(ボランティア学習論) 青年心理学 家族の発達と病理1(社会・集団・家族心理学1) 家族の発達と病理2(社会・集団・家族心理学2) 加齢の社会心理学(社会・集団・家族心理学) 精神生理学 ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論</p>	<p>[コア科目] コミュニティと音楽／メディア論</p> <p>[展開科目] 社会調査法A, B 社会教育課題研究(ボランティア学習論) 社会教育課題研究(障害共生教育論) 社会教育課題研究(リスクコミュニケーション論) 社会教育課題研究(ジェンダー問題学習論) 社会教育課題研究(自然共生地域支援論) 社会教育課題研究(子どもコミュニティ支援論) ライフコースの心理学(発達心理学) アート・ミュージックプロジェクト実践 ファッション文化論／ESD実践論</p>	<p>[展開科目] 心理学的援助支援(心理実習)</p>	卒業研究
	コア・展開科目	<p>[コア科目] 心理学の基礎と歩み(心理学概論) からだの構造と機能(人体の構造と機能及び疾病) 加齢の認知心理学(知覚・認知心理学)</p> <p>[展開科目] 発達心理学(幼・小)心の発達と教育1(学習・言語心理学1)心の発達と教育2(教育・学校心理学1)</p>	<p>[コア科目] 健康心理学(健康・医療心理学)／心理学調査法(心理学研究法) ミュージックセラピー／知覚と行為(知覚・認知心理学)</p> <p>[展開科目] 児童の発達と学習／青年心理学／社会性の発達心理学 生理心理学(神経・生理心理学)／臨床心理学(臨床心理学概論) 心理面接論(心理学的支援法)／深層心理学 家族の発達と病理1(社会・集団・家族心理学1) 家族の発達と病理2(社会・集団・家族心理学2) 心理学実験法／心理学観察法 発達アセスメント(心理的アセスメント)／心理学統計法A, B 障害児発達学(障害者・障害児心理学)／臨床発達支援学1,2 加齢の社会心理学(社会・集団・家族心理学)／精神生理学 認知コミュニケーション論(知覚・認知心理学)／ジェンダー社会文化論</p>	<p>[コア科目] 心理学研究実践A／心理学研究実践B(心理学研究法)</p> <p>[展開科目] 社会教育課題研究(ジェンダー問題学習論) 社会教育課題研究(子どもコミュニティ支援論) 心の発達と教育3(教育・学校心理学2) 初等学校教育相談 ライフコースの心理学(発達心理学) 感情・人格心理学／中等学校教育相談 心理検査法(心理的アセスメント) 投影法心理検査／臨床心理学演習(心理演習) 公認心理師の職責／福祉心理学 司法・犯罪心理学／産業・組織心理学 関係行政論／健康教育論</p>	<p>[展開科目] 心理学的援助支援(心理実習)</p>	卒業研究
	コア・展開科目	<p>[コア科目] アクティブライフ概論 からだの構造と機能(人体の構造と機能及び疾病) 加齢の認知心理学(知覚・認知心理学)</p> <p>[展開科目] 心の発達と教育1(学習・言語心理学1)心の発達と教育2(教育・学校心理学1)健康運動科学</p>	<p>[コア科目] 障害共生教育論／健康心理学(健康・医療心理学)／運動心理学 スポーツプロモーション論／身体運動の文化史／生物統計学</p> <p>[展開科目] 青年心理学／社会性の発達心理学／生理心理学(神経・生理心理学) 心理学統計法A, B／身体機能の適応／加齢の健康行動科学 運動方法学／公衆衛生学／セーフティプロモーション論 身体運動のダイナミクス／加齢の社会心理学(社会・集団・家族心理学) 身体マネジメント研究／精神生理学／環境保健学／応用身体運動科学 スポーツマネジメント／トラック&フィールド実習／自然体験活動実習 スイミング&アクアティックススポーツ実習／ボールゲームズ実習 認知コミュニケーション論(知覚・認知心理学) コンテンポラリーダンス1,2</p>	<p>[展開科目] 社会調査法A, B 社会教育課題研究(障害共生教育論) 社会教育課題研究(ジェンダー問題学習論) 社会教育課題研究(子どもコミュニティ支援論) 中等学校教育相談 アクティブライフ演習 健康教育論 スポーツコミュニケーション形成論 身体運動科学実験 バイオメカニクス実験 柔道実習／ジムナスティクス実習 コンテンポラリーダンス1,2</p>	<p>[展開科目] アクティブライフ演習</p>	卒業研究
	コア・展開科目	<p>[コア科目] 心理学の基礎と歩み(心理学概論) 音楽文化史1,2 エス／ミュージコロジー1,2 人とアート論 文化政策論</p> <p>[展開科目] 心の発達と教育1(学習・言語心理学1)心の発達と教育2(教育・学校心理学1)</p>	<p>[コア科目] 社会教育計画論／障害共生教育論／サウンドデザイン ミュージックセラピー／日本文化交流論／身体表現論</p> <p>[展開科目] 児童の発達と学習／青年心理学／社会性の発達心理学 生理心理学(神経・生理心理学)／臨床心理学(臨床心理学概論) 身体機能の適応／声の表現／シアトリカル・アート論 民族音楽演奏演習1,2／民族音楽演奏特別演習／音楽集団活動論1,2 楽案アンサンブル1,2／ミュージックセラピー&アナリシス 声楽表現演習／ピアノ演奏演習／声楽アンサンブル1,2 近現代アート論／表象文化形成論／近現代文化言説論 芸術文化表象論／都市と建築の20世紀／コンテンポラリーダンス1,2</p>	<p>[コア科目] 音楽作品研究／コミュニティと音楽</p> <p>[展開科目] 社会教育課題研究(ボランティア学習論) 社会教育課題研究(ジェンダー問題学習論) 中等学校教育相談 声楽伴奏表現演習 邦楽歌唱法 邦楽器演奏法 芸術表現演習 アート・ミュージックプロジェクト実践 ESD実践論</p>	<p>[展開科目] 音楽実習</p>	卒業研究

(注) 2年次の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

環境共生学科

	1年次	2年次	3年次	4年次	
教養科目	情報基礎科目(1年次) 健康・スポーツ関連科目(1年次)				
	基礎教養科目 総合教養科目 外国語科目		高度教養科目		
学部共通科目	GSP グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習 GSP演習(オリエンテーション) GSP(留学期GSコース、実践型GSコース、研修型GSコース)		GSP演習(リフレクション)		
	<p>[基礎科目] 初年次セミナー 協働型リーダーシップ論 国際開発援助論(JICA) コミュニティ創成論 フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンバワメント論 情報リテラシー演習1,2 アジア共同体論1,2</p> <p>[発展科目] フィールドワーク方法論 Academic Communication(英、独、仏) Academic Writing(英、独、仏) コリア語入門1,2 スペイン語入門1,2 イタリア語入門1,2 ラテン語入門1,2</p> <p>[発展科目] Cultures and Societies in Japan A, B 日本語コミュニケーション1,2 情報発信演習1,2 プログラミング基礎演習1,2 ESD演習11、12、II1、II2(国際人間科学)</p>	<p>[発展科目] English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes</p> <p>[発展科目] 外国語実習A, B インターンシップ実習A, B フィールドワーク実習A, B 日本語文法基礎 実践日本語基礎 日本語・日本文化基礎演習</p>			
共通	環境共生学概論1,2,3 地球環境学	途上国農村地域開発論 統計的問題解決法			
	<p>[共通基礎科目] 物理学入門 力学基礎1,2 電磁気学基礎1,2 連続体力学基礎 熱力学基礎 基礎無機化学1,2 基礎有機化学1,2 生物学概論A1, A2 生物学各論A1, A2 生物学各論C1, C2 基礎地学1,2 線形代数1,2,3,4 微分積分1,2,3,4 数理統計1,2</p>	<p>[コア科目] 環境物理学A, B 環境物質科学A, B 環境生命科学A, B 環境地球科学A, B 数理科学基礎 数理科学入門(統計系) 数理科学入門(解析系) 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 環境基礎科学実験A(主に地学) 環境基礎科学実験B(主に生物学) 環境基礎科学実験C(主に化学) 市民科学教育論</p> <p>環境自然科学プログラム</p>	<p>[展開科目] 宇宙環境物理学 地球環境物理学 大気環境学 生物多様性科学 生態学 環境資源植物科学 生物統計学 生物統計学 からだの構造と機能 (人体の構造と機能及び疾病) 公衆衛生学</p>	<p>[展開科目] 環境基礎物理学A, B 環境インフォマティクス 環境数値解析 多変量解析 実験計画法 野外生物学実習 環境応用科学実験A (地球環境) 環境応用科学実験B (生物環境) 環境応用科学実験C (物質環境) 環境応用科学実験D (環境物理) 環境基礎科学演習1,2 疫学</p>	<p>[展開科目] 環境物理学特別演習1 環境物理学特別演習2</p> <p>卒業研究</p>
学部専門科目	<p>[共通基礎科目] 物理学入門 力学基礎1,2 電磁気学基礎1,2 連続体力学基礎 熱力学基礎 基礎無機化学1,2 基礎有機化学1,2 生物学概論A1, A2 生物学各論A1, A2 生物学各論C1, C2 基礎地学1,2 線形代数1,2,3,4 微分積分1,2,3,4 数理統計1,2</p>	<p>[コア科目] 数理科学基礎 数理科学入門(統計系) 数理科学入門(幾何系) 数理科学入門(解析系) 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 環境物理学A, B 環境物質科学A, B 環境生命科学A, B 環境地球科学A, B 環境社会学 公害・環境史</p> <p>環境数理科学プログラム</p>	<p>[共通基礎科目] 量子力学基礎 相対論基礎</p> <p>[展開科目] 環境インフォマティクス 環境数値解析 生物統計学</p>	<p>[展開科目] 計算代数A, B 複雑系の幾何学 環境モデル解析A, B 多変量解析 実験計画法 かたちの数理A, B 数理科学研究A, B</p>	<p>[展開科目] 環境基礎科学演習1,2</p> <p>卒業研究</p>
	<p>[共通基礎科目] 力学基礎1,2 熱力学基礎 基礎有機化学1,2 生物学概論A1, A2 線形代数入門1,2 微分積分入門1,2 数理統計1,2 法学 経済学 政治学 人文地理学 社会学 倫理学</p>	<p>[コア科目] 環境経済学 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論A, B 高齢者環境論 環境社会学 公害・環境史 グローバル都市地域論</p> <p>[展開科目] 衣環境論 アパレル設計論 食環境論A, B アプライアンス環境論 スマート ライフサイエンス 環境政策論 環境システム設計論 地域景観生態論 住環境論 環境保健学 環境・健康リスク論 福祉環境システム論 地域空間システム論 地域社会共生論 身体機能の適応</p> <p>生活共生科学プログラム</p>	<p>家族の発達と病理1 (社会・集団・家族心理学1) 家族の発達と病理2 (社会・集団・家族心理学2) 加齢の社会心理学 (社会・集団・家族心理学) 都市と建築の20世紀 公衆衛生学</p>	<p>[展開科目] 環境形成科学実験A, B, C, D 環境形成科学実習A, B 合意形成プロセス論 環境形成科学調査法1,2 ファッション文化論 環境形成科学演習1A, 2A</p>	<p>卒業研究</p>
コア・展開科目	<p>[共通基礎科目] 法学 経済学 政治学 人文地理学 社会学 倫理学</p>	<p>[コア科目] 環境経済学 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論A, B 高齢者環境論 環境社会学 公害・環境史 グローバル都市地域論</p> <p>社会共生科学プログラム</p>	<p>フィールドワーク実習 近現代政治思想論 近現代経済思想論 ジェンダー社会文化論 グローバル正義論</p>	<p>[展開科目] 環境形成科学演習1A, 1B, 1C, 2A, 2B, 2C</p>	<p>卒業研究</p>
	<p>[共通基礎科目] 法学 経済学 政治学 人文地理学 社会学 倫理学</p>	<p>[コア科目] 環境経済学 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論A, B 高齢者環境論 環境社会学 公害・環境史 グローバル都市地域論</p> <p>社会共生科学プログラム</p>	<p>フィールドワーク実習 近現代政治思想論 近現代経済思想論 ジェンダー社会文化論 グローバル正義論</p>	<p>[展開科目] 環境形成科学演習1A, 1B, 1C, 2A, 2B, 2C</p>	<p>卒業研究</p>

(注) 2年次の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

子ども教育学科

	1年次	2年次	3年次	4年次	
教養科目	情報基礎科目(1年次) 健康・スポーツ関連科目(1年次)				
	基礎教養科目 総合教養科目 外国語科目		高度教養科目		
学部共通科目	GSP グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習 GSP演習(オリエンテーション) GSP(留学期GSコース、実践型GSコース、研修型GSコース)		GSP演習(リフレクション)		
	<p>[基礎科目] 初年次セミナー 協働型リーダーシップ論 国際開発援助論(JICA) コミュニティ創成論 フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンバワメント論 情報リテラシー演習1,2 アジア共同体論1,2</p> <p>[発展科目] フィールドワーク方法論 Academic Communication(英、独、仏) Academic Writing(英、独、仏) コリア語入門1,2 スペイン語入門1,2 イタリア語入門1,2 ラテン語入門1,2</p> <p>[発展科目] Cultures and Societies in Japan A, B 日本語コミュニケーション1,2 情報発信演習1,2 プログラミング基礎演習1,2 ESD演習11、12、II1、II2(国際人間科学)</p>	<p>[発展科目] English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes</p> <p>[発展科目] 外国語実習A, B インターンシップ実習A, B フィールドワーク実習A, B 日本語文法基礎 実践日本語基礎 日本語・日本文化基礎演習</p>			
共通	子ども教育学概論 教育原理(世界と日本の学校教育) 保育原理(世界と日本の乳幼児教育)		子ども教育学演習1,2	子ども教育学演習3,4	
	<p>[コア科目] 教職論(小) 発達心理学(幼・小) 教育経営学(幼・小) 初等算数論 初等図工論 教師入門 乳幼児心理学 子どもの食と栄養</p> <p>[展開科目] 乳幼児と健康 乳幼児と環境 乳幼児と言葉 乳幼児と表現(音楽) 乳幼児と表現(造形) 乳幼児と人間関係 乳幼児と環境 乳幼児と言葉 子どもと家庭 特別支援教育入門(幼・小) 社会的養護 社会的養護内容演習 乳幼児心理学演習 子ども家庭支援論 観察実習I</p> <p>学校教育学コース</p>	<p>[コア科目] 日本教育史 児童の発達と学習 教育行政学(幼・小) 初等カリキュラム論 初等算数教育論 初等国語教育論 初等理科教育論 初等音楽科教育論 初等図工科教育論 初等体育科教育論 初等英語教育論 初等道徳教育論 初等教育方法論 初等国語論 初等社会科論 初等理科論 初等生活科論 初等音楽論 初等家庭科論 初等体育論 初等英語論</p> <p>[展開科目] グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(科学教育) 特別支援教育論 障害共生教育論 発達障害心理学(障害者・障害児心理学) 発達障害と共生社会1 発達障害と共生社会2 障害児発達学(障害者・障害児心理学) 肢体不自由者心理・生理・病理 支援教育臨床学 臨床発達支援学1,2 臨床発達支援学1,2 児童青年精神医学(精神疾患とその治療) 言語発達と教育1(学習・言語心理学2) 言語発達と教育2(学習・言語心理学3) 障害とリハビリテーション 英語科実践研究 観察実習II 学校インターンシップI</p> <p>学校教育学コース</p>	<p>[コア科目] 初等社会科教育論 初等家庭科教育論 総合的な学習の指導法(小) 初等特別活動指導論 初等生徒指導論(進路指導を含む) 初等学校教育相談</p> <p>[展開科目] グローバル教育文獻演習 西洋教育思想史 比較教育システム論 特別支援教育総論 知的障害の生理・病理 知的障害の生理解 発達障害教育論 肢体不自由教育論 障害児支援学概論 社会認識実践研究 数理認識実践研究 科学教育実践研究 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII</p>	<p>[展開科目] 教育・保育実践演習 (乳幼児教育) 特別支援教育実地研究 学校インターンシップIII 教職実践演習(幼・小)</p> <p>卒業研究</p>	
学部専門科目	<p>[コア科目] 教育行政学(幼・小) 乳幼児教育課程論 初等カリキュラム論 保育内容研究(健康I) 保育内容研究(健康II) 保育内容研究(人間関係) 保育内容研究(環境) 保育内容研究(造形表現) 保育内容研究(音楽表現) 保育内容研究(児童文化と言葉) 初等教育方法学 初等国語論 初等生活科論 初等音楽論 初等体育論</p> <p>コース選択</p>	<p>[コア科目] 教育行政学(幼・小) 乳幼児教育課程論 初等カリキュラム論 保育内容研究(健康I) 保育内容研究(健康II) 保育内容研究(人間関係) 保育内容研究(環境) 保育内容研究(造形表現) 保育内容研究(音楽表現) 保育内容研究(児童文化と言葉) 初等教育方法学 初等国語論 初等生活科論 初等音楽論 初等体育論</p> <p>コース選択</p>	<p>[コア科目] 乳幼児教育内容・方法論 乳幼児理解と教育相談 初等学校教育相談 子どもの保健と健康</p>	<p>[展開科目] グローバル教育文獻演習 西洋教育思想史 比較教育システム論 特別支援教育総論 障害児保育演習 社会認識実践研究 科学教育実践研究 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII</p>	<p>[展開科目] 英語科実践研究 学校インターンシップIII 教職実践演習(幼・小)</p> <p>卒業研究</p>
	<p>[コア科目] 教育行政学(幼・小) 乳幼児教育課程論 初等カリキュラム論 保育内容研究(健康I) 保育内容研究(健康II) 保育内容研究(人間関係) 保育内容研究(環境) 保育内容研究(造形表現) 保育内容研究(音楽表現) 保育内容研究(児童文化と言葉) 初等教育方法学 初等国語論 初等生活科論 初等音楽論 初等体育論</p> <p>コース選択</p>	<p>[コア科目] 教育行政学(幼・小) 乳幼児教育課程論 初等カリキュラム論 保育内容研究(健康I) 保育内容研究(健康II) 保育内容研究(人間関係) 保育内容研究(環境) 保育内容研究(造形表現) 保育内容研究(音楽表現) 保育内容研究(児童文化と言葉) 初等教育方法学 初等国語論 初等生活科論 初等音楽論 初等体育論</p> <p>コース選択</p>	<p>[コア科目] 乳幼児教育内容・方法論 乳幼児理解と教育相談 初等学校教育相談 子どもの保健と健康</p>	<p>[展開科目] グローバル教育文獻演習 西洋教育思想史 比較教育システム論 特別支援教育総論 障害児保育演習 社会認識実践研究 科学教育実践研究 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII</p>	<p>[展開科目] 英語科実践研究 学校インターンシップIII 教職実践演習(幼・小)</p> <p>卒業研究</p>

(注) 2年次の始めにコースを選択します。

教員紹介

Faculty Members

グローバル文化学科

地域文化系プログラム

板倉史明 准教授
映画学
映画学の専門知識を基礎にして日本映画を研究しています。映画フィルムの保存や復元に関する活動も行っています。

伊藤友美 教授
東南アジア地域研究、タイ、現代仏教、女性
現代のタイで展開する仏教と社会運動、女性出家者、タイ華人の宗教を中心とした研究を行っています。

井上弘貴 教授
政治理論、公共政策論、アメリカ政治思想史
19世紀末から20世紀のアメリカ合衆国の政治、社会、都市について、政治学と思想史の2つの方向から研究をおこなっています。

長 志珠絵 教授
日本近現代史、文化研究、ジェンダー史
歴史学の研究者でジェンダー史研究も。主に戦前戦後の日本（ですので、植民地も含めます）で、文化的社会的事象を扱います。

小澤卓也 教授
ラテンアメリカ近現代史、食のグローバル・ヒストリーズ
中米のナショナリズムや先住民族について研究しつつ、この地域の特産品をキーワードとした世界史の構築を目指しています。

辛島理人 准教授
国際交流、観光、開発援助など経済と文化の関係
アジア太平洋における文化交流を、日本を結節点にして、脱植民地化、移動・移民、経済発展、冷戦といった視点から考えています。

衣笠太郎 講師
ヨーロッパ近現代史、ドイツ＝中東欧の境界地域研究
シレジアをはじめとするドイツ＝中東欧境界地域における集团的帰属意識、分離主義運動、住民移動に関する歴史研究をしています。

昆野伸幸 教授
日本の思想の歴史的研究
おもに20世紀前半の時期における日本のナショナリズムと宗教（とくに神道）との関係について研究しています。

貞好康志 教授
東南アジア地域研究、人間・環境学
インドネシアなど東南アジアの歴史や文化の研究。同時に、人類の未来に日本と東南アジアの経験や智慧をうまく活かす方策の探究。

谷川真一 教授
社会学、現代中国研究
現代中国の政治と社会について研究しています。特に文化大革命などの政治・社会運動、政治体制の変容などに関心を持っています。

寺内直子 教授
民族音楽学、日本音楽史
日本、アジア、欧米の音楽・芸能を研究しています。国や地域を越えてダイナミックに交流、変容する文化の動態を捉えます。

西谷拓哉 教授
アメリカ文学、アメリカ映画
アメリカ文学・映画作品を中心として、合衆国の多元的な文化状況や表現様式の独自性を研究しています。

深川宏樹 准教授
文化人類学、社会人類学、オセアニア地域研究
人類学の異文化理解の原論と、我々にとって他なる人間概念と社会性の研究を行い、人間の変身・変容可能性をテーマとしています。

異文化コミュニケーション系プログラム

梅屋 潔 教授
社会人類学、文化人類学、民俗学、宗教学
死霊、呪詛などを中心に、望ましくない現象がなぜ起こるのかという「災因論」と、その逆の「福音論」、呪詛と祝福の民族誌が私のテーマです。

大石侑香 講師
社会人類学、北極地域研究
人間と自然のかかわりあいに関心があり、自然環境や社会経済的变化に対する 人々の文化生態適応について研究しています。

岡田浩樹 教授
文化人類学、越境・多文化研究、宇宙人類学
グローバル化に伴う移民・越境と多文化化の問題、また宇宙開発技術と社会・文化の関係に関しJAXAと共同研究を進めています。

北村結花 准教授
比較文学・比較文化
「近代における古典の受容」という観点から、多彩なメディアによる日本古典文学の翻案・翻訳について研究しています。

近藤祉秋 講師
文化人類学、北米先住民研究
内陸アラスカを中心に北米先住民社会における人と動物の関係、生業活動、自然資源管理、神話を研究しています。

齋藤 剛 教授
文化人類学、中東研究
多様な宗教、民族の人々が混在する中東の一角をなすモロッコに暮らす人びとの生活、宗教、社会関係などについて研究しています。

下條尚志 准教授
歴史人類学、東南アジア地域研究
ベトナム、東南アジアを中心に、戦争や社会主義を経験した人々の生き残る術とローカルな秩序の作り方を研究しています。

田中 祐理子 准教授
科学認識論、近現代科学史
20世紀の医学・生命科学を中心に科学の歴史を研究しつつ、「人間の認識とはなにか」という哲学の問いに取り組んでいます。

塚原東吾 教授
科学技術医学史、蘭学とEUテクノ政治学
ケイタイが無かったら、キミの生活はどうなる？ 国際政治は「核」で動いている。文科系からそこに、「直球勝負」で挑むのだ！

中村 覚 教授
国際政治、中東政治、平和・安全保障
中東を主な事例に新興・途上国地域における国際政治を研究しています。途上国に適する紛争予防の政策を考えています。

新川匠郎 講師
政治制度論、ドイツ語圏研究
ドイツ語圏を中心に、経済政策や移民難民政策など各種政策が政治制度（選挙や議会）を介して決まる過程について研究しています。

深町 悟 講師
イギリス文学、特に政治的背景の強いもの
19世紀後半から第一次大戦ごろの英国近未来戦争小説（侵攻小説）が英国内、あるいは海外でどのような影響を与えたかを研究しています。

安岡正晴 教授
現代アメリカ政治、比較公共政策
米国など先進諸国の政策（人種・移民、経済、教育、福祉、医療、税制、環境エネルギー、メディア政策など）を比較研究しています。

李 昊 講師
比較政治、中国政治、東アジアの国際関係
中国の政治を、比較の視点から研究しています。中国共産党の派閥、党政関係、中国の対外政策などの課題に取り組んでいます。

現代文化システム系プログラム

青山 薫 教授
社会学、ジェンダー／セクシュアリティ、移住・移民、調査方法論
「男女」のような二分法を批判的に考察するという大テーマの下、性的マイノリティ、ケア・性労働、国境を越える移動を調査研究。

池上裕子 教授
1945年以後の美術、現代アート、グローバル・モダニズム
第二次世界大戦後のモダン・アートの展開を、アメリカと日本を中心に、歴史的・比較文化的な要因から研究しています。

石田圭子 准教授
美学・芸術論・表象文化論
私の研究テーマは、芸術と社会との関わり、とりわけ芸術と政治の関係について表象・思想家・歴史的観点から考察することです。

市田良彦 教授
社会思想史、フランス現代思想
おもにフランスをフィールドに、現代の哲学者や思想家が「社会」や「経済」をどのようなものと捉えてきたかを研究しています。

岩本和子 教授
フランス語圏文学、芸術文化論
フランス語圏（フランスやベルギー等）の文化芸術を中心・周縁概念、国家・民族・言語との関係、多文化共生の側面から考察します。

上野成利 教授
政治思想・社会思想史
理性と暴力、主体と権力、自由と公共性など、政治思想・社会思想史上の重要なテーマをめぐって、哲学的な考察を試みています。

岡本佳子 講師
舞台芸術学、西洋音楽史、中東欧文化研究
ハンガリーを中心とする近現代の音楽と舞台芸術について、作品分析とともに当時の文学や思想との関連から研究しています。

小笠原 博毅 教授
カルチュラル・スタディーズ
メディアとスポーツを「スペクタクル」をキーワードに連結させ、そこに現れる憎悪や差別に対峙する文化的技術を模索しています。

工藤晴子 講師
国際社会学、移住研究、難民・強制移動研究、ジェンダー／セクシュアリティ
ひとの国際移動（特に難民・強制移動）や人道支援が、ジェンダーやセクシュアリティとどのように関わっているを研究しています。

櫻井 徹 教授
法哲学
移民・難民、貧困、人権侵害、テロ、内戦といった現代のグローバルな課題をいかに解決するかという問題に取り組んでいます。

鹿野祐嗣 助教
フランス現代哲学、哲学史
20世紀フランスの哲学者ジル・ドゥルーズの著作の注釈的読解を基軸に据えて、哲学史や社会思想、精神分析理論の研究もしています。

高田映介 講師
ロシア文学・演劇、芸術と社会の関係性
19世紀ロシアの作家・劇作家チャーホフについて、文化政策と芸術の関わりを視野にいれつつ散文と戯曲作品の研究をしています。

西澤晃彦 教授
社会学、貧困、社会的排除、都市
貧困や社会的排除が人に及ぼすものを、アイデンティティ（自己イメージ）や社会関係のありように特に注目して議論してきました。

松家理恵 教授
イギリス文学・思想
18-19世紀のイギリス、特にロマン主義の文学・思想。主なテーマは、西欧近代における自然観の変化や共感能力としての想像力。

言語情報コミュニケーション系プログラム

石田雄樹 講師
フランス文学・思想、物語論
言語学の理論に基づいた文学作品の分析を行っています。主な関心は18世紀フランス、自己語り、幸福、翻訳です。

井原 駿 助教
言語学、形式意味論、語用論
自然言語における「意味」に関して、（形式）意味論・語用論の観点から研究を行なっています。

大月一弘 教授
インターネットやICT利用方法の研究
インターネットやICT利用方法の研究インターネットやICTの効果的な利用方法の検討、教育分野や様々な分野へのICTシステムの開発を研究しています。

康 敏 教授
情報科学、教育学
情報通信技術の情報教育および外国語教育への応用に関してコミュニケーションの視点から研究・開発を行っています。

北田 亮 准教授
認知神経科学・心理物理学
外界を認識するこころの仕組みを、心理学や生理学の手法を組み合わせて調べます。

清光英成 教授
ソーシャル・コンピューティング、データ管理、教育情報システム、社会情報システム
様々なデータを有効に利活用するための情報資料構成ならびにデータ管理、ソーシャル・コンピューティングの肯定的評価と社会還元。

Cynthia Quinn 准教授
応用言語学
応用言語学（特にL2ライティングにおけるコーパスを用いた参照）、L1とL2による作文の教授法、ジャンル分析、質的研究方法。

小松原 哲太 講師
認知言語学、レトリック
意味の柔軟性を生かしたことばのレトリックに興味があり、認知言語学のアプローチから、比喩などの表現法を研究しています。

巽 智子 講師
第一言語習得、心理言語学、言語学
私たちはどのように言語を身に付けるのでしょうか？ 心理言語学のアプローチで、文法知識の習得のメカニズムを探っています。

田中順子 教授
第二言語習得理論、応用言語学
第二言語習得理論は、人が母語を習得した後で母語以外の言語を習得する際のプロセスやメカニズムについて研究する分野です。

西田健志 准教授
コミュニケーションのユニバーサルデザイン
異なる文化や性格を有する世界中の多様な人々が気持ちよく共存できる、ITを応用したコミュニケーション環境づくりを目指します。

林 良子 教授
音声学、言語学、異文化コミュニケーション
人間のことば（母語・外国語）の音声について、心理言語学、外国語教育、脳科学、言語障害学などの観点から分析します。

藤濤文子 教授
翻訳理論
翻訳を異文化間のコミュニケーションとして捉えて、読者や媒体等の要因によって文化差がどう表れるかを考えます。

松本絵理子 教授
認知心理学、認知神経科学
人間がどのようにして自分を取り巻く世界を認識して行動しているのかを、認知や注意を手がかりに研究しています。

南 佑亮 准教授
言語学、構文論、語法研究
言語（主に英語・日本語）の様々な構文現象について、「意味がいかに形式に反映されるか」という観点から研究しています。

南本 徹 助教
言語学、歴史言語学、印欧語研究、古代ギリシア語研究
研究主に古代ギリシア語（特に方言）の研究をしています。その裏で「人間の言語はどれくらい多様であり得るのか」を考えています。

村尾 元 教授
社会システム科学、機械学習、データサイエンス
機械学習や人工知能の技術を利用して、少数の個人から社会や国際関係までの様々な集団における現象やダイナミクスを分析します。

発達コミュニティ学科

社会エンパワメントプログラム

稲原美苗 准教授
ジェンダー理論、現象学、臨床哲学
ジェンダー理論、現象学、臨床哲学を用いて、社会に潜む特権性や自明性を疑い、マイノリティの問題について多角的に探究します。

喜屋武 享 助教
子どもコミュニティ支援、社会疫学、ESD
子どもや青少年の「健康・発育発達の社会的決定要因」「運動をはじめとする生活習慣による健康・発育発達への影響」を研究しています。

清野未恵子 准教授
自然共生社会、野生動物管理、ESD
農山村地域の人と野生動物の共存を目指した研究実践を軸とし、持続可能な社会づくりのための人材育成に関する研究をしています。

津田英二 教授
生涯学習論、障害共生支援論
障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシヴな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

松岡広路 教授
生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論
ESD推進の方法論（原理・システム）を、社会教育及び福祉教育・ボランティア学習の観点から考究しています。

村山留美子 准教授 ※
環境保健学、環境リスク学
環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

大田美佐子 准教授 ※
音楽文化史、音楽美学
文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

岡崎香奈 准教授 ※
音楽療法、即興演奏
即興的音楽療法の実践を元に、医療、福祉、教育現場などにおける音楽の臨床的活用と「人間の音楽行為」について研究しています。

平芳裕子 准教授 ※
表象文化論、ファッション文化論
イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

吉田圭吾 教授 ※
臨床心理学、スクールカウンセリング
中等教育学校におけるスクールカウンセリング、リストカットや盗み・暴力への対処法及び自死遺族相談について研究しています。

※他プログラムとの兼任

心の探究プログラム

相澤直樹 准教授
臨床心理学、臨床心理検査（投影法）
青年期の対人恐怖傾向と自己愛傾向、ならびにロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について研究しています。

安達友紀 助教
臨床心理学、慢性痛、ペインマネジメント
慢性痛をもつ人のより良い理解と心理支援が研究テーマです。集学的治療、催眠、認知行動療法、準備性、怒り等に関心があります。

伊藤俊樹 准教授
臨床心理学、芸術療法、消費者の深層心理
心理療法におけるイメージの変化、ロールシャッハテストを用いた芸術家の研究、消費者の深層心理の研究を行っています。

加藤佳子 教授
健康心理学、健康教育
心の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について解明し、well-beingの向上を目指しています。

河崎佳子 教授
臨床心理学、発達臨床心理学
聴覚障害児の心理発達と家族支援に関して実践研究を重ねてきました。また、被虐待児童への心理的ケアについて取り組んでいます。

坂本美紀 教授
教育心理学
児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

谷 冬彦 准教授
人格心理学
青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）の研究を中心として、広く自己や人格に関する実証的研究をしています。

林 創 教授
発達心理学、教育心理学
幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性などの発達に関する研究をしています。

古谷真樹 准教授
睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

山根隆宏 准教授
発達臨床心理学、発達障害児家族支援
発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

山本健太 助教
障害者心理学、実験心理学、特別支援教育
自閉スペクトラム症者を対象に記憶が行動選択や感情調整に及ぼす影響について実験心理学的手法を用いて研究しています。

吉田圭吾 教授
臨床心理学、スクールカウンセリング
中等教育学校におけるスクールカウンセリング、リストカットや盗み・暴力への対処法及び自死遺族相談について研究しています。

アクティブライフプログラム

秋元 忍 准教授
体育・スポーツ史
19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法により解明します。

石原 暢 助教
応用身体運動科学
子どもの運動・スポーツに伴う体力向上や体格の変化が、認知機能と学力に与える効果について研究をしています。

片桐恵子 教授
社会心理学、社会老年学
超高齢社会での高齢者の活躍、人間関係、コミュニケーションを中心に、社会心理学的な関心から学際的な研究を行っています。

木伏紅緒 助教
身体運動制御、ニューロメカニクス
日常動作やスポーツ動作での神経筋制御と動作能力との関係について、運動学的分析や表面筋電図分析を用いた研究をしています。

木村哲也 准教授
身体運動システム論
運動生理学やバイオメカニクスなどの手法から、身体運動の制御メカニズムを明らかにする研究を行っています。

近藤徳彦 教授
応用生理学、運動生理学、環境生理学
物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から研究を行っています。

佐藤幸治 准教授
運動生理・生化学
運動やサプリメントによる1型・2型糖尿病の新規予防・治療法の開発及び女性アスリートに対する基礎的研究を行なっています。

高田義弘 准教授
運動生理学（身体コンディショニング）
競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディションやパフォーマンスへの影響について研究しています。

高見和至 教授
運動心理学
「運動習慣の心理的プロセス」という、人が運動やスポーツを始める行動の発現から定着、習慣化に至る心理を探求しています。

長ヶ原 誠 教授
スポーツ振興論、国際スポーツ文化論
国内外のスポーツプロモーションに関する実践研究を通じて、活動的なライフスタイルと地域活性化の支援方法を探求しています。

中村晴信 教授
公衆衛生学、行動医学、生理人類学
生活習慣と疾病予防・健康増進との関係を、体格・体組成や食行動に着目し、心理・生理・行動面から総合的に研究しています。

原田和弘 准教授
老年行動学、健康スポーツ論
身体活動・運動を通じた健康づくりの実現に貢献することを目指し、高齢者の身体活動・運動習慣の形成について研究しています。

前田正登 教授
スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学
スポーツの合理的な動作と技術の習得過程に関する研究、及び、選手の技術レベルに適合するスポーツ用具の研究を行っています。

増本康平 准教授
認知心理学、高齢者心理学
世界で進展する高齢社会の問題解決を目指し、加齢が認知、感情、意思決定に及ぼす影響について研究を実施しています。

村山留美子 准教授 ※
環境保健学、環境リスク学
環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

※他プログラムとの兼任

ミュージックコミュニケーションプログラム

大田美佐子 准教授
音楽文化史、音楽美学
文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

岡崎香奈 准教授
音楽療法、即興演奏
即興的音楽療法の実践を元に、医療、福祉、教育現場などにおける音楽の臨床的活用と「人間の音楽行為」について研究しています。

谷 正人 准教授
民族音楽学、イラン伝統音楽
イラン音楽を題材に、即興・オリジナリティ概念を、またサントゥール演奏を通して、音楽演奏に伴う心身の問題を研究しています。

余田有希子 助教
音楽音響制作
現代の様々な環境やテクノロジーに応じた「音楽・音響」の表現の可能性について、実践と理論の両面から研究しています。

田畑暁生 教授 ※
社会情報学、映像論
新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

津田英二 教授 ※
生涯学習論、障害共生支援論
障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシヴな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

野中哲士 教授 ※
発達科学、生態心理学
わざが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

※他プログラムとの兼任

アートコミュニケーションプログラム

梅宮弘光 教授
近代建築史
近代建築史、都市史。日本の近・現代に、人びとが建物や街についてどんなことを考え、何をつくってきたのかを探っています。

岡野真裕 助教
認知科学、パフォーマンス科学
わざの修得・熟達に重要なこととは何か。心・身体・環境の相互作用という切り口から、実験やシミュレーションで調べています。

岸本吉弘 教授
絵画の創作と研究
近代以降の絵画表現を視覚造形的な視点より分析し、それらに関係対称化される「日本」という存在を見つめています。

清水大地 助教
認知科学、身体性科学
魅力的な表現や振る舞いが生み出される過程について、個人・他者・環境との関わり合いに着目し、フィールドワーク・実験等の手法により研究しています。

関 典子 准教授
舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究
舞踊は身体や動きという儂いものを媒体とする芸術です。その現在性にこだわり、表現・研究活動の両面から探究しています。

田畑暁生 教授
社会情報学、映像論
新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

野中哲士 教授
発達科学、生態心理学
わざが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

平芳裕子 准教授
表象文化論、ファッション文化論
イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

環境共生学科

環境自然科学プログラム

青木茂樹 教授
素粒子・宇宙線物理学
ニュートリノ振動に関する実験や成層圏で宇宙から飛来するガンマ線を観測する気球実験など宇宙の成り立ちに関わる研究をしています。

蘆田弘樹 准教授
光合成科学、生化学、分子生物学、生物工学
植物、藻類、微生物の光合成メカニズムを遺伝子・タンパク質レベルで解明し、光合成的バイオ燃料・物質生産へ応用する研究を行っています。

伊藤真之 教授
宇宙物理学、科学教育
人工衛星等による観測に基づく宇宙の研究や、科学技術領域における市民のエンパワーメントに関する実践研究等をしています。

丑丸敦史 教授
植物生態学、生物多様性科学
花の進化や送粉ネットワークの構造、農業生態系や都市生態系における生物多様性の維持メカニズムについて研究しています。

江原靖人 教授
生物有機化学
生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。

大串健一 教授
地球環境、環境地学
地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。

近江戸 伸子 教授
環境資源植物科学
環境資源植物を対象に新機能の開発、遺伝特性、環境適応についてのゲノム・染色体・遺伝子研究を行っています。

小谷野由紀 助教
非線形物理学、アクティブマター
生物のような自発的に動き回るアクティブな物体やその集団について、それらに共通する物理的な性質を研究しています。

佐藤春実 教授
高分子化学、高分子振動分光学
環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究を行っています。

高見泰興 教授
進化生態学
昆虫の進化、多様化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。

田中成典 教授
計算生物学、理論生命科学
タンパク質や核酸等の分子シミュレーションやミクロな原子レベルから計算機上で構築する理論生命科学について研究しています。

谷 篤史 准教授
地球惑星科学、物理化学、物性物理学
物質の性質や光・放射線による物質の変化を分光学を用いて調べることにより、地球や惑星の環境を理解する研究をすすめています。

源 利文 教授
環境生理学、水圏生態学、感染症生態学
環境DNAなどを用いて生物の分布、行動、生理を調べています。その応用として感染症の生態学にも取り組んでいます。

環境数理科学プログラム

稲葉太一 准教授
数理統計学、応用統計学、データ解析
統計手法は、適用分野によって異なる側面があります。医学統計の分野における多重比較法の適用範囲を広げる事を研究しています。

Emerson Gaw Escolar 助教
位相的データ解析
データの「形」に着目し、遺伝子発現や企業の技術開発などの複雑な現象に潜む構造を抽出する位相的データ解析を研究しています。

桑村雅隆 教授
応用解析学
物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本雄二 准教授
数理統計学
株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

長坂耕作 准教授
計算機代数、計算機科学
パソコンで代数計算（因数分解や方程式の求解等）を効率的に行う方法、誤差を含む場合や他分野への展開について研究しています。

宮田任寿 教授
幾何学的トポロジー
Shape理論（局所的に複雑な空間への幾何学的なアプローチの方法）、距離空間の幾何学性質（次元など）について研究しています。

生活共生科学プログラム

井上真理 教授
衣環境学、感性工学
グローバルな視点で衣生活の環境への影響を考慮し、人の感覚を主体とした繊維製品のマテリアル設計を提案する研究を行っています。

内山愉太 助教
都市地域環境学、地理情報科学
国内外の都市地域の社会生態系と相互関係に着目した、多様な主体による包摂的な環境マネジメントに向けた研究を行っています。

大野朋子 准教授
緑地環境学、造園学
人間生活と植物利用について探求することで地域固有の景観形成と創造、都市緑地環境の向上に関わる研究をしています。

佐藤真行 教授
環境経済学
環境や生態系の破壊を引き起こす現代の経済システムの問題と、持続可能な発展という課題について研究しています。

田畑智博 准教授
環境システム工学（土木工学）
私達の生活や経済活動が環境にどのような影響を与えているかを体系的に解析し、持続可能な社会のあり方を提案しています。

平山洋介 教授
生活空間計画
住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか、という問題を理論と実証の双方から考えています。

福田博也 准教授
生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス
人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。

村山留美子 准教授
環境保健学、環境リスク学
環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

湯浅正洋 助教
食環境科学
未利用資源の食品としての有用性評価と調理・加工・利用法の提案や、原理に基づいた新しい料理の開発に取り組んでいます。

社会共生科学プログラム

阿部紀恵 助教
国際法、国際環境法
環境条約以外の国際法規則が、地球規模の環境問題の解決にいかに関与しうるか、という観点から、その形成と発展について研究しています。

井口克郎 准教授
社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題
社会保障制度を必要とする人々とそれをになう専門職ら双方の人権が保障される社会保障制度のあり方について研究しています。

太田和宏 教授
途上国政治経済
グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。

澤 宗則 教授
人文地理学、地域社会論、移民社会論
日本の地域社会の変容と問題、移民社会の形成と問題、南アジアの開発について人文地理学の視点から研究を行います。

橋本直人 准教授
社会思想、社会学史
現代社会の根底にある考え方を探るために、社会理論の歴史を研究しています。並行して、思想の計量的研究も進めています。

原 将也 助教
地域研究、環境地理学、生業研究
おもにアフリカと日本の農村を対象に社会、経済、政治、自然環境の変化に対応する人々の暮らしを住民の視点から研究しています。

子ども教育学科

赤木和重 准教授 発達障害心理学 自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

岡部恭幸 教授
数理認識論、数学教育
算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識についての研究とその知見に基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。

川地亜弥子 准教授
教育方法学
人間の発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、研究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。

北野幸子 教授
乳幼児教育学、保育学
乳幼児の教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステム（専門組織の活動や政策）について研究しています。

木下孝司 教授
発達心理学
乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達や、障害をもつ乳幼児の発達保障について研究しています。

勅使河原 君江 准教授
美術・造形教育
美術作家が取り組んだ美術・造形教育についての理論研究と対話型美術鑑賞教育についての実践研究の両面から研究しています。

中谷奈津子 准教授
保育学、家族関係学
認定こども園等における子育て支援の研究をしています。子どもの最善の利益と家族の幸せに寄与する保育者の役割を考えています。

目黒 強 准教授
児童文学、国語教育
近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会学的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。

山口悦司 教授
科学教育
人々の科学の学習をイノベティブに支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。

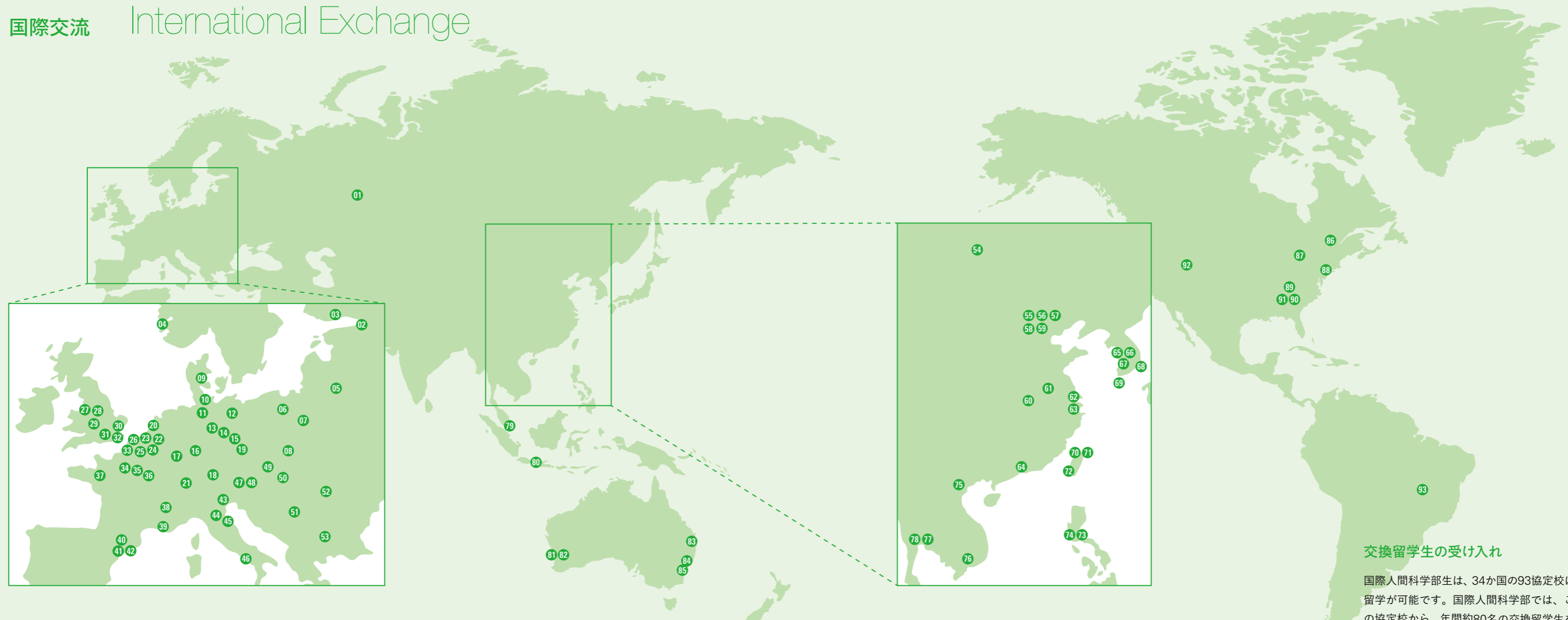
山下晃一 教授
教育制度論、教育経営学
代学校組織が直面する課題について、地域との矛盾の関係と、教員の困難（特にベテランの「悲哀」）の2点から研究しています。

山根隆宏 准教授
発達臨床心理学、発達障害児家族支援
発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

吉永 潤 教授
社会認識教育論
社会認識とは何か。それは、つきつめれば、人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。

Lassila Erkki Tapio 助教
教師教育学、比較教育学
環境によって変わりうる教職と才能教育を、関係者のストーリーを中心に調査し、教師教育プログラムを改善しています。

渡邊隆信 教授
西洋教育史、教育哲学
20世紀初頭ドイツの「新教育」と呼ばれる教育改革の思想と実践について研究しています。日独の教師教育改革も研究対象です。



主な協定校 Partner Schools

- ロシア Russia**
 - 1 Ural Federal University
 - 2 Saint-Petersburg State University
- フィンランド Finland**
 - 3 University of Helsinki
- ノルウェー Norway**
 - 4 University of Bergen
- リトアニア Lithuania**
 - 5 Vilnius Gediminas Technical University
- ポーランド Poland**
 - 6 Nicolaus Copernicus University in Toruń
 - 7 University of Warsaw
 - 8 Jagiellonian University
- デンマーク Denmark**
 - 9 Aarhus University
- ドイツ Germany**
 - 10 Kiel University
 - 11 University of Hamburg
 - 12 Free University of Berlin
 - 13 Martin Luther University Halle-Wittenberg
 - 14 Leipzig University
 - 15 Technical University of Dresden
 - 16 Technical University of Darmstadt
 - 17 Trier University
 - 18 Technical University of Munich

- チェコ Czech**
 - 19 Charles University
- オランダ Netherland**
 - 20 Leiden University
- スイス Switzerland**
 - 21 University of Basel
- ベルギー Belgium**
 - 22 Katholieke Universiteit Leuven
 - 23 Saint-Louis University
 - 24 Vrije Universiteit Brussel
 - 25 Université Libre de Bruxelles (ULB)
 - 26 Ghent University
- 英国 United Kingdom**
 - 27 The University of Manchester
 - 28 The University of Sheffield
 - 29 University of Birmingham
 - 30 University of Essex
 - 31 School of Oriental and African Studies (SOAS) University of London
 - 32 University of Kent

- フランス France**
 - 33 Université de Lille
 - 34 Université Paris Nanterre
 - 35 Université Paris Cité
 - 36 Université Paris 2 Panthéon-Assas
 - 37 Université de Rennes 1
 - 38 Université Grenoble Alpes
 - 39 L'Université d'Aix-Marseille
- スペイン Spain**
 - 40 Autonomous University of Barcelona
 - 41 University of Barcelona
 - 42 Pompeu Fabra University
- イタリア Italy**
 - 43 Ca' Foscari University of Venice
 - 44 Università di Bologna
 - 45 Università di Bologna Campus di Forlì
 - 46 Università degli Studi di Napoli "L'Orientale" UNIOR
- オーストリア Austria**
 - 47 FH JOANNEUM University of Applied Sciences
 - 48 University of Graz
- スロバキア Slovakia**
 - 49 Comenius University
- ハンガリー Hungary**
 - 50 Eotvos Lorand University

- セルビア Serbia**
 - 51 University of Belgrade
- ルーマニア Romania**
 - 52 Babes-Bolyai University
- ブルガリア Bulgaria**
 - 53 Sofia University St.Kliment Ohridski
- モンゴル Mongolia**
 - 54 National University of Mongolia
- 中国 China**
 - 55 Tsinghua University
 - 56 Renmin University of China
 - 57 Beijing Normal University
 - 58 Beijing Foreign Studies University
 - 59 Minzu University of China
 - 60 Wuhan University
 - 61 Nanjing University
 - 62 East China Normal University
 - 63 Shanghai Jiao Tong University
 - 64 The University of Hong Kong
- 韓国 Korea**
 - 65 Chung-ang University
 - 66 Seoul National University
 - 67 Korea Nazarene University
 - 68 Pusan National University
 - 69 Jeju National University

- 台湾 Taiwan**
 - 70 National Taiwan University
 - 71 National Chengchi University
 - 72 National Cheng Kung University
- フィリピン Philippines**
 - 73 Ateneo de Manila University
 - 74 San Beda College
- ベトナム Vietnam**
 - 75 Vietnam National University
 - 76 Ho Chi Minh City University of Social Sciences and Humanities
- タイ Thailand**
 - 77 Kasetsart University
 - 78 Thammasat University
- シンガポール Singapore**
 - 79 Nanyang Technological University
- インドネシア Indonesia**
 - 80 Gadjah Mada University
- オーストラリア Australia**
 - 81 The University of Western Australia
 - 82 Curtin University
 - 83 The University of Queensland,
 - 84 The University of New South Wales
 - 85 University of Wollongong

- カナダ Canada**
 - 86 University of Ottawa
 - 87 Huron University College
- アメリカ合衆国 United States**
 - 88 Queens College of The City University of New York
 - 89 The University of Tennessee at Knoxville
 - 90 University of Georgia
 - 91 Georgia Institute of Technology
 - 92 Utah State University
- ブラジル Brasil**
 - 93 University of Brasilia

交換留学生の受け入れ

国際人間科学部生は、34か国の93協定校に交換留学が可能です。国際人間科学部では、これらの協定校から、年間約80名の交換留学生を受け入れています。本学部キャンパスにおいて、留学生と共に学びながら、様々な異文化に触れることができます。また、本学部では在学学生によるチューター組織があり、留学生の来日時の諸手続き、学修、日常生活などのサポートを行っています。留学生とのパーティーや淡路島ショートトリップなどの行事や、ハイキング、花見、紅葉狩り、六甲祭出店など様々な自主イベントの企画・運営も行います。これらの交流活動を通して広い世界を知り、体験し、飛躍する力を身に付けることができます。

神戸大学 EUエキスパート人材養成プログラム (KUPES)

EUエキスパート人材養成プログラム (KUPES) は、国際人間科学部を含む4学部と3研究科の学生が、EU (欧州連合) に関してそれぞれの専門分野と学際的観点から多面的かつ体系的に学べるように、神戸大学が開発した学位プログラムです。学部2年生から博士前期 (修士) 課程まで一貫したカリキュラムを提供し、EUの社会文化・法・政治・経済的側面について専門的かつ分野横断的に研究する能力や高度な語学力を段階的に習得できます。



キャリア支援

国際人間科学部では、所属する学生一人ひとりのキャリア形成を積極的に行っています。

1 充実したバックアップ体制

鶴甲第1・第2キャンパス両方に、キャリア形成を支援するキャリアサポートセンターを設置しています。学生が自らの専門性をどのように社会に生かしていくかを考え、そのために必要な学びや行動を支援します。

2 各種セミナー、ガイダンスの開催

さまざまな就職活動支援セミナー（グループディスカッション練習、面接対策なども含む）、教員採用試験対策講座、教員採用セミナー、公務員試験対策講座（心理・福祉系など）、キャリア講座などを開催しています。

3 就職、大学院進学、進路、キャリアに関する個別相談

キャリアアドバイザーが、就職活動全般、自己分析支援、業界・企業・仕事研究支援、エントリーシート作成支援、論作文フィードバック、模擬面接、大学院進学・キャリアなどに関する相談に対応しています。

1年生 自己探索 2年生 挑戦と達成

自分の未来への可能性を広げておく時期です。勉強・部活動・ボランティア活動・アルバイトなど、充実感を得ておきましょう。2年生からのプログラム選択、3年生からの研究室選択は、進路選択の一つと考えて、適性・興味・関心をふまえて決定しましょう。大学院進学説明会やインターンシップ、キャリアセミナーなどに参加し、将来自分が社会で活躍するイメージを身近にしておくことも大切です。

3年生 進路の模索と選択

大学院進学や就職活動の準備から本番へ向かう時期です。今までの自分を振り返り、興味・関心・能力・価値観などを明確にしておく必要があります。進学準備や就職活動をサポートするためのガイダンスやセミナーが多く実施されます。情報収集が大切なポイントですから、自分が得られるサポートを把握し、活用していきましょう。

4年生 進路決定

大学院進学や就職など進路が決定していく時期です。決定の時期は個人差があり、焦らず取り組む力も必要です。進学や就職活動のゴールは合格や内定ではなく、それぞれが社会の中で自分の能力を発揮し活躍していくことです。どのように社会の中で自らを活かしていくかを考え、具体的に社会と自分をつないでいくための重要な時期です。

学生生活支援

充実した学生生活をサポートするために様々な制度を用意しています。詳細については、神戸大学ウェブサイトの「教育・学生生活」(<http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife>)をご覧ください。



奨学金

日本学生支援機構、民間奨学団体、地方公共団体及び神戸大学による奨学金の他、入学料免除、授業料免除の制度があります。

学生寮

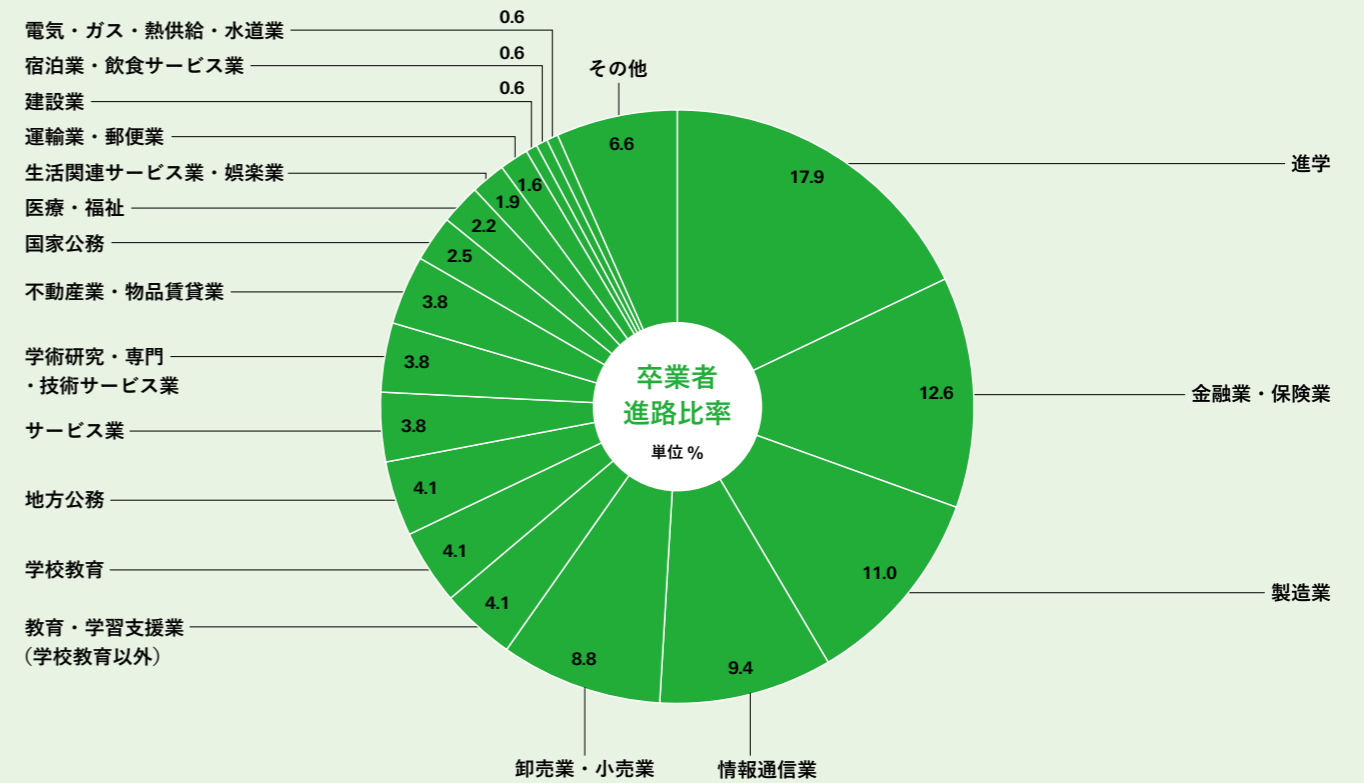
修学に適する良好な環境を提供するため、学生寮を設置しています。日本人学生と留学生の混在型となっており、国際的な交流ができることもメリットです。

健康

保健管理センターにおいて、医師やカウンセラーが常駐し、心身の健康に関するあらゆる相談を受け付けています。

卒業生は、国際人間科学部での学びを通して得た知識や能力を活かし、多様な分野で活躍しています。

[国際人間科学部 業種別 進路比率]



[学科別 就職先の一例]

グローバル文化学科

サントリーホールディングス
カルビー
ワコール
宇部興産
王子ホールディングス
野村総合研究所
楽天
高知新聞社
伊藤忠商事
TOKAIホールディングス
三井住友銀行
三井住友海上火災保険
三菱UFJ銀行
明治安田生命保険相互会社
オリックス
関電不動産開発
トライグループ
JR西日本コミュニケーションズ
大阪出入国在留管理局近畿財務局
兵庫県職員

発達コミュニティ学科

レンゴー
オービス総研
NTTデータMSE
デジタルアドバイザーズ
コンソーシアム
東海旅客鉄道
丸紅 JFE商事
阪急阪神百貨店
ローソン
大和証券
ジェーシービー
東京海上日動火災保険
三井不動産リアルティ
一条工務店
公立大学法人大阪職員
浜学園
モード・プランニング・ジャパン
オリエンタルランド

環境共生学科

東レ
富士フィルム
帝人
トヨタ自動車
富士通
NTTデータ
大塚商会
ウチダエスコ
長瀬産業
ニトリ
三井住友銀行
日本生命保険相互会社
阪急阪神ホールディングス
大阪ガス都市開発
兵庫県高等学校教員(地理・歴史)
アビームコンサルティング
兵庫県職員

子ども教育学科

中西金属工業
NTT西日本
フェリシモ
三井住友銀行
ECC
イーオン
EDVCOM
社会福祉法人ほっとスマイル
ニチイ学館
エン・ジャパン
神戸市小学校教員
大阪府小学校教員
堺市小学校教員
高知県小学校教員
近畿大学附属小学校教員
社会福祉法人大久保保育園
内閣府
神戸市職員
堺市職員
岡山県職員

募集人員、取得可能な資格免許、沿革

Admissions, Available Licenses, History

2023年度学生募集人員

学科	入学定員	一般選抜		総合型選抜		学校推薦型 選抜	社会人 特別選抜	私費外国人留学生 特別選抜
		前期日程	後期日程		「志」特別選抜			
グローバル文化学科	140名	95名	35名	—	—	10名	—	若干名
発達コミュニティ学科	100名	54名	10名	スポーツ科学受験 12名 [表現領域受験] 音楽受験 12名 美術受験 8名 身体表現受験 4名	—	—	若干名	若干名
環境共生学科	80名	文化系 23名 理科系 30名	文化系 8名 理科系 9名	理数系科目受験 3名	7名	—	若干名	若干名
子ども教育学科	50名	39名	11名	—	—	—	若干名	若干名

取得可能な資格免許

学科	取得可能な資格	取得可能な免許
グローバル文化学科	学芸員	中学校教諭一種（英語） 高等学校教諭一種（英語）
発達コミュニティ学科	学芸員 社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事任用資格 公認心理師受験資格（注1）	中学校教諭一種（保健体育、音楽、美術） 高等学校教諭一種（保健体育、音楽、美術）
環境共生学科	学芸員 社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事任用資格	中学校教諭一種（理科、数学、家庭、社会） 高等学校教諭一種（理科、数学、家庭、地理歴史、公民）
子ども教育学科	学芸員 社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事任用資格	幼稚園教諭一種 小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種

（注1）「心の探究プログラム」を選択する学生が主。受験資格取得には、卒業後に大学院で公認心理師科目を修得するか、一定期間の実務経験が必要です。

沿革

国際文化学部・国際文化学研究所

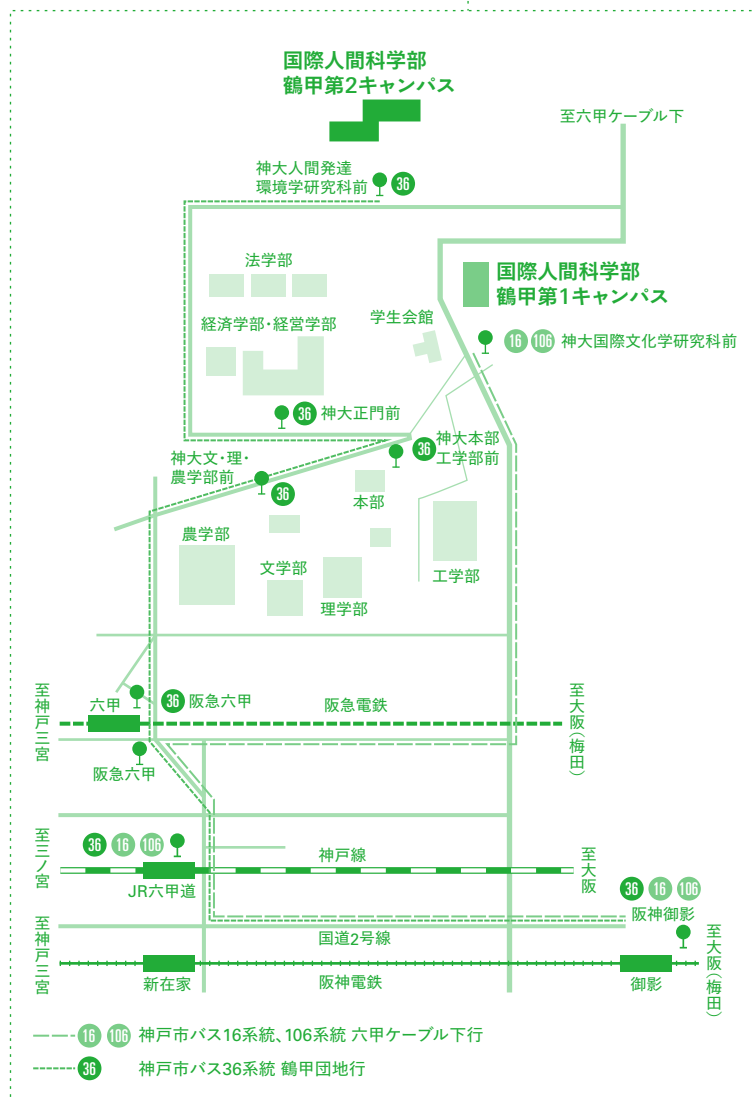
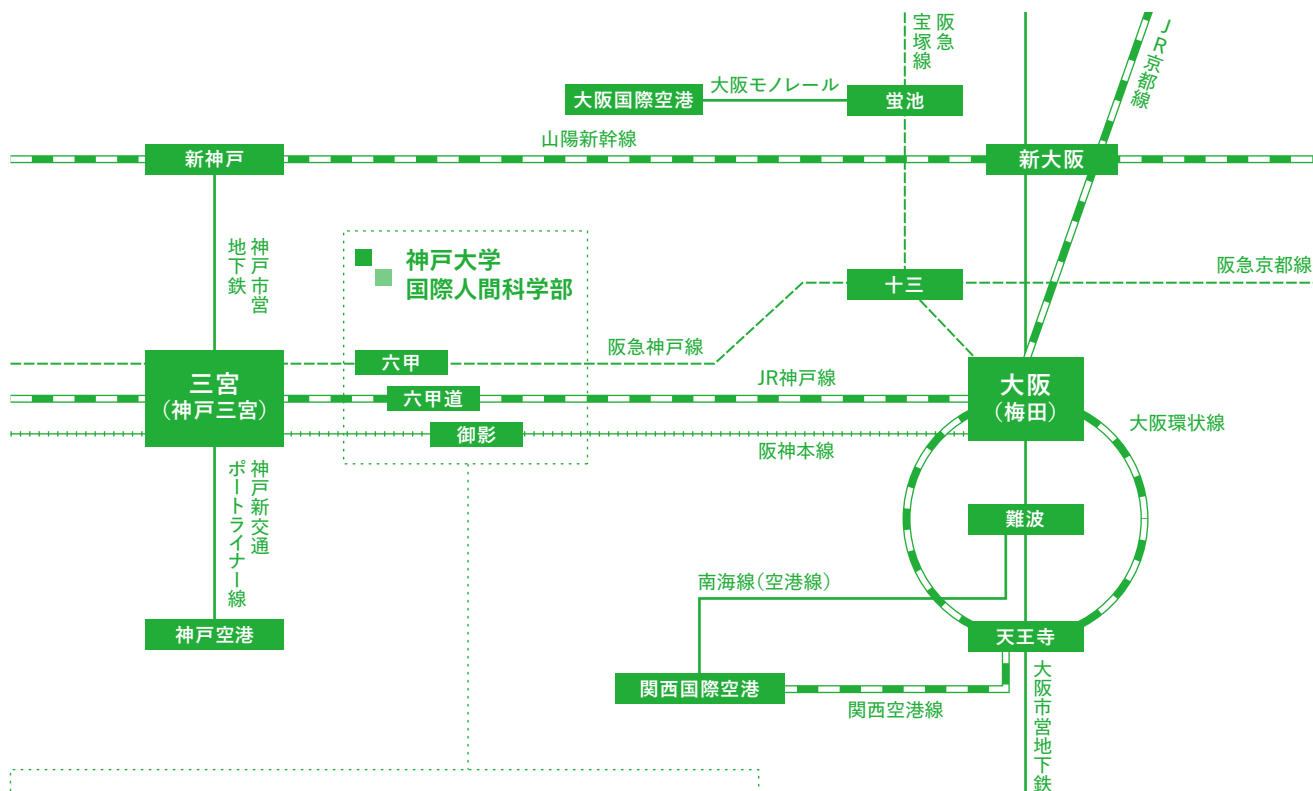
1923年（大正12年）	官立姫路高等学校設立
1949年（昭和24年）	神戸教養課程設置
1963年（昭和38年）	神戸大学教養部設置
1992年（平成4年）	神戸大学教養部を改組し、 神戸大学国際文化学部設置
1997年（平成9年）	神戸大学大学院教育学研究科を改組し、 神戸大学大学院総合人間科学研究科 修士課程設置
1999年（平成11年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科 博士課程設置
2005年（平成17年）	神戸大学国際文化学部改組
2007年（平成19年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科を 改組し、神戸大学大学院国際文化学 研究科設置

発達科学部・人間発達環境学研究所

1874年（明治7年）	兵庫県師範伝習所設置
1949年（昭和24年）	兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し、 神戸大学教育学部設置
1981年（昭和56年）	神戸大学大学院教育学研究科修士課程設置
1992年（平成4年）	神戸大学教育学部を改組し、 神戸大学発達科学部設置
1997年（平成9年）	神戸大学大学院教育学研究科を改組し、 神戸大学大学院総合人間科学研究科 修士課程設置
1999年（平成11年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科 博士課程設置
2005年（平成17年）	神戸大学発達科学部改組
2007年（平成19年）	神戸大学大学院総合人間科学研究科を 改組し、神戸大学大学院 人間発達環境学研究所設置

国際人間科学部

2017年（平成29年）	神戸大学国際文化学部と発達科学部を 再編統合し、神戸大学国際人間科学部を設置
--------------	---



最寄りの駅からのアクセス

最寄りの駅は、阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。

鶴甲第1キャンパス

神戸市バス16系統、106系統「六甲ケーブル下方面」または「神戸大学鶴甲第一キャンパス東門」行に乗車、「神大国際文化学研究所前」で下車。

鶴甲第2キャンパス

神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗車、「神大人間発達環境学研究所前」で下車。

神戸大学 国際人間科学部

鶴甲第1キャンパス
 [グローバル文化学科]
 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1
 電話 078-803-7515 (代表)

鶴甲第2キャンパス
 [発達コミュニティ学科、環境共生学科、子ども教育学科]
 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
 電話 078-803-7905 (代表)

<https://www.fgh.kobe-u.ac.jp>

2022年6月発行



